

上述シタルトコロハ一般的不法行為ノ説明ナレドモ、我が民法ハ第七一四條以下ニ於テ特殊ノ不法行為ニ付キ規定シタリ。

第七一四條ノ場合

(一) 無能力者ノ監督義務者ノ不法行為 行為ノ責任ニ付キ辨認力ナキ者ガ第三者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之レヲ監督スベキ法定義務アル者又ハ此者ニ代リテ無能力者ヲ監督スル者ハ其損害ヲ賠償スルノ義務ヲ負フ。尤モ監督義務者ガ其義務ヲ怠ラザリシトキハ此限りニ在ラズ(七一四)。

第七一五條ノ場合

(二) 使用者ノ不法行為 或ル事業ノ爲メ他人ヲ使用スル者ハ被用者ガ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ使用者又ハ之レニ代リテ事業ヲ監督スル者ガ其被用者ノ選任及其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲サバ之レヲ免カレ得ベキニモ拘ラズ其注意ヲ爲サザリシ爲メ損害ヲ加ヘタルトキニ限り損害賠償ノ責ニ任ズ(七一五)。

第七一六條ノ場合

但シ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ハ之レヲ妨ゲザルモノトス(七一五)。

第七一七條ノ場合

本條ニ於テ「事業ノ執行ニ付キ」ト云フハ、被用者ノ行為ガ業務執行ト外形上同一ナルヲ以テ足ル。又他人ヲ使用スルトハ、自己ト他人トノ間ニ選任監督ノ關係アルヲ以テ足り、必シモ有效ナル契約關係ノ存在スルコトヲ要セズ。

(三) 注文者ノ不法行為 注文者ハ請負人ガ其仕事ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ニ付テハ注文又ハ指圖ニ付キ注文者ニ過失アリタル場合ニ於テノミ其賠償ヲ爲ス責ニ任ズ(七一六)。

(四) 土地ノ工作物又ハ竹木ノ占有者ノ不法行為 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リ他人ニ損害ヲ生ジタルトキハ其工作物ノ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ヲ爲ス可キモノナ

レドモ、若シ占有者ガ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損害ハ所有者ニ於テ之レヲ賠償セザル可ラズ(七一七)。

第七一八條ノ場合

竹木ノ栽植又ハ支持ニ瑕疵アル場合モ亦前上ノ規定ノ準用アリ(七一七)。

尙ホ以上ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付キ責任アル者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之レニ對シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得ベシ(七一七)。

(五) 動物占有者ノ不法行為 動物ノ占有者ハ其動物ガ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ヲ有スルモ動物ノ種類及性質ニ從ヒ適當ナル注意ヲ爲シタル場合ニ於テハ其責任ナシ。占有者ニ代リテ動物ノ保管ヲ爲シタルモノ亦同ジ(七一八)。

損害賠償債權ノ發生

### 第四節 不法行為ニ因ル損害賠償

#### 第一 損害賠償債權ノ發生

或者ガ不法行為ヲ爲シタルトキハ其行為ノ效果トシテ不法行為者ニ損害賠償義務發生スルモノトス。而テ不法行為ニヨリテ損害賠償義務ヲ負フ者ハ不法行為ノ種類ニヨリテ異ナル。此點ニ付テハ前節(一)乃至(五)ノ説明ヲ參照スベシ。

又不法行為ニヨリテ損害賠償債權ヲ取得スル者ハ(イ)被害者(七〇九、七一四乃至七一八參照)(ロ)被害者ガ其生命ヲ害セラレタル場合ニ於テハ被害者ノ父母、配偶者及子ハ財産上ノ損害ハ勿論非財産的損害ニ付テモ之レガ賠償請求權ヲ有ス(七一)(ハ)胎兒(七二)之レナリトス。



第二 損害賠償ノ範圍

不法行為ニ基ク損害賠償ノ範圍ニ付テハ我ガ民法ニ規定ナキヲ以テ學者間ニ議論ノ存スルトコロナレドモ、元來不法行為ト債務不履行トハ其本質ヲ異ニセザルヲ以テ其性質ノ許ス限リ不法行為ノ賠償範圍ニ關シテハ第四一六條ノ規定ノ準用アル可キモノト解セザル可ラズ。從ツテ其範圍ハ(イ)通常生ズ可キ損害(ロ)不法行為ノ當時豫見シ又ハ豫見シ得ベカリシ事情ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償ナリトス。然レドモ其損害ノ發生ニ付キ被害者ニモ過失ノ存スルトキハ裁判所ハ其被害者ノ過失ヲ斟酌シテ損害賠償ノ額ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス(七二二)。

第三 損害賠償ノ方法

不法行為ニ因ル損害賠償ノ方法ニ付テハ第四一七條ノ規定ノ準用アルガ爲メ金錢賠償ナルコトヲ以テ原則トス(七二二、四一七)。然レドモ他人ノ名譽ヲ毀損シタル場合ニ於テハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ之レト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命ズルコトヲ得ルモノナリ(七二三)。

第四 賠償請求權ノ消滅時效

不法行為ニ因ル損害賠償請求權ハ被害者又ハ其法定代理人ガ損害及加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間(短期時效)、不法行為ノ時ヨリ二十年間(長期時效)之レヲ行ハザルトキハ時效ニ因リテ消滅スルモノトス(七二四)。

第四編 親族法

第一章 總 說

我ガ民法ハ其第四編ヲ親族トシテ親族關係及家族關係ヲ定メ且ツ之レニ基ク諸種ノ權利義務ヲ規定シタリ。此等ノ規定ヲ總稱シテ親族法ト云フ。從ツテ親族法ハ其本來ノ意義ニ於テハ身分法ナリトス。然レドモ之レヲ仔細ニ觀察スルトキハ其中ニ身分關係ニ關スル規定(純正親族法)ト財產關係ニ關スル規定(親族財產法)トノ存在スルヲ見ル。又親族法ノ規定ハ専ラ公序良俗ニ關スル所謂公益規定タルノ性質ヲ有スルヲ以テ其大部分ハ強行法ナリ。尙ホ親族法ヨリ生ズル權利義務即チ親族權ハ雙面的性質ヲ有シ且ツ親族タル身分ニ基クモノナリトス。又親族權ハ私權ニシテ其内容ハ或ハ支配權ナルコトアリ(親權者ノ懲戒權)、或ハ請求權ナルコトアリ(扶養請求權)。最後ニ親族法上ノ財產權ト通常ノ財產權トノ區別ハ結局其權利ガ親族又ハ家族ナル身分ト始終スルヤ否ヤ及之レヲ拋棄スルコトヲ得ルヤ否ヤヲ標準トナスベキモノトス。

第二章 親 族



### 第一節 親族ノ意義及範圍

#### 第一 親族ノ意義

親族トハ我が民法ノ規定ニ從ヘバ六親等内ノ血族、配偶者及三親等内ノ姻族ヲ云フ。而テ此處ニ云フ血族中ニハ所謂準血族ヲモ包含セシムルモノトス(七二五、七二七、七二八)。

#### 第二 親系及親等

(一) 親系 親系トハ血統連絡ノ關係(準血族ヲモ含ム)ヲ云フ。即チ親系ハ親族關係ノ種類ヲ決定スベキモノニシテ之レヲ標準トシテ(イ)男系親、女系親(ロ)直系親、傍系親及(ハ)尊屬親、卑屬親ノ三ニ親族關係ヲ分ツコトヲ得ベシ。

親等

(二) 親等 親等トハ親族關係ノ遠近ヲ決定スル標準ニ外ナラズ。民法ハ所謂世數主義ヲ採用シ(イ)直系親ニ在リテハ其相互間ノ世數ヲ(ロ)傍系親ニ在リテハ其相互ヨリ共同始祖ニ至ル迄ノ世數ノ和ヲ以テ親等ノ數トナシタリ(七二六)。尙ホ配偶者間ニハ親等ナク、準血族及姻族ハ血族ト同様ナル計算法ニヨル。

#### 第三 親族ノ範圍

親族ノ範圍ヲ如何ニ定ムルヤニ付キテハ議論アレドモ要スルニ各國各時代ノ社會事情ニ基キテ

親族ノ範圍

決スベキ問題ニシテ一概ニ論定シ得ベキモノニアラズ。我が民法ハ上述ノ如ク六親等内ノ血族、配偶者及三親等内ノ姻族ヲ以テ親族ノ範圍ナリトナセリ。

### 第二節 親族ノ種類

親族ニハ血族、準血族、配偶者及姻族ノ別アリ。以下ニ於テ之レヲ分説スベシ。

#### 第一 血族及準血族

血族及準血族

(一) 血族 血族トハ血統連絡ノ關係アルモノヲ云ヒ、此關係ハ出生ニヨリテ發生スルモノトス。而テ婚姻關係ヨリ生ジタル血統關係ヲ嫡出ト云ヒ、然ラザルモノヲ庶出ト云フ。

(二) 準血族又ハ法定血族 準血族トハ元來血統ノ連絡ナキ者ナレドモ法律上ノ事實ニ基キテ自然血族關係ニ於ケルト同一ニ取扱ハルルモノヲ云フ。之レニ三種アリ。

(イ) 養親子關係 此關係ハ養子縁組ニヨリテ發生スルモノニシテ養子ト養親及其血族トノ

間ニ縁組ノ日ヨリ血族ト同一ノ親族關係ヲ生ゼシムルモノナリ(七二七)。

(ロ) 繼親子關係 繼父母ト繼子トノ間ニハ親子間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生ズ(七二

八)。尙ホ此關係ハ家附キノ子ト繼父母トノ間ニ於テ生ズルモノトナスヲ通説ニシテ且ツ正當ナリ

トス。



(ハ) 嫡母庶子 嫡母ト庶子トノ間ニハ親子間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生ズ(七二八)。庶子トハ父ノ認知シタル私生子ニシテ嫡母トハ庶子ト家ヲ同ジウスル父ノ正妻ヲ云フ。

配偶者

第二 配偶者

配偶者トハ婚姻ニヨリテ結合シタル男女即チ夫婦ヲ相互ヨリシテ呼ブ名稱ナリ。

姻族

第三 姻族

姻族關係トハ夫婦ノ一方ト其他ノ一方ノ血族トノ間ニ認めラルル親族關係ナリ(七二五)。

第三節 親族關係ノ發生及終了

親族關係ノ發生

第一 親族關係ノ發生

親族關係中血族ハ出生又ハ認知ニヨリ、配偶者關係、姻族關係、繼親子關係及嫡母庶子ノ關係ハ婚姻ニヨリ、養親子關係ハ養子縁組ニヨリテ發生ス。

親族關係ノ終了

第二 親族關係ノ終了

親族關係中(イ)血族ハ死亡ニヨリ(ロ)養親子關係ハ離縁及縁組ノ取消(七三〇、八五九、七八七)並ニ去家(七三〇)ニヨリ(ハ)配偶者ハ離婚及婚姻ノ取消(七二九、七八七)又ハ死亡ニヨリ(ニ)姻族關係ハ離婚、婚姻ノ取消又ハ去家(七二九、例外七三一)ニヨリテ終了ス。

第三章 家

第一節 總 說

我が民法ノ制度

第一 我が民法ノ制度

我國ニ於テハ古來家族制度ヲ採用シ今日ニ於テモ猶ホ家族ノ制度ハ親族構成ニ對シ重大ナル意義ヲ有ス。元來家族制度トハ家ヲ以テ社會構成ノ單位トナス制度ニシテ個人ヲ以テ社會ノ單位トナス制度ヲ個人制度ト云フ。世界ノ大勢ハ家族制度ヨリ個人制度ニ移轉シタルモノナルコト世人周知ノ事實ニシテ、ソハ個性ノ尊重、經濟上ノ理由等ノ原因ニ基ク必然的ノ結果ナリ。但シ現在ニ於テモ家族ソノモノハ存在シ從ツテ或ル意味ニ於ケル家族制度アルコトハ勿論ナルモ唯ダ之レヲ以テ社會ノ單位トナサザルニ至リシナリ。我國ニ於テモ此大勢ヲ看取シ、民法ニ於テハ過渡的ノ規定ヲ設ケタルモノトス。蓋シ民法制定當時ノ我國ノ社會狀態ハ未ダ以テ純然タル個人制度ヲ採用スルニ足ラザリシガ爲メナリ。

家ノ觀念

第二 家ノ觀念

家ノ觀念ハ純粹ナル家族制度時代ナルト否トニヨリテ多少其内容ヲ異ニス。即チ純粹ナル家族制度時代ニ於テハ家ハ親族ノ共同團體ノ存在ヲ要件トスル親族構成ノ基礎トナルモノニシテ社會



上獨立ノ權利主體タリシモノナリ。然ルニ現在ニ於テ家トハ戶主權ノ及ブ範圍ヲ云フモノニ過ギズ。即チ現在ニ於ケル家ノ觀念ハ古代ノソレニ比シテ甚シク形式的ナルモノトナリシナリ。

氏及家籍

第三 氏及家籍

氏

(一) 氏 戶主及家族ハ其家ノ氏ヲ稱スベキモノトス(七四六)。氏ハ濫リニ之レヲ變更スルコトヲ得ズ(明治五年太政官布告二三五號)。尙ホ分家ハ本家ノ氏ヲ稱ス可ク、廢絶家再興ノ場合ニ於テハ其廢絶家ノ氏ヲ稱スベク、又棄兒ノ氏名ハ市町村長之レヲ定ム(戶七八)。其他一家創立ノ場合ニハ創立者任意ニ其氏ヲ定ムルコトヲ得ベシ。

家籍

(二) 家籍 家ニハ家籍アリ。即チソノ法律上ノ所在アルモノトス。家籍ハ又之レヲ戶籍トモ云フ。而テ日本ノ國籍ヲ有スルモノニ非ザレバ家ニ屬スルコトナク、又日本ノ國籍ヲ有スル者ハ必ズ或ル家ニ屬ス。戶籍ノ作成ハ戶籍法ノ規定ニ從ヒテ之レヲ爲ス。

第二節 家ノ設立及消滅

家ノ設立

第一 家ノ設立

家ノ設立トハ一家ノ創設ヲ云ヒ、之レヲ廣義ニ解スルトキハ狹義ノ一家創立ノ外、分家及廢絶家再興ノ場合ヲモ含ム。

分家

(一) 分家

分家トハ家族ガ戶主ノ同意ヲ得テ其家ヨリ分カレテ新ニ一家ヲ創立スル法律行爲ナリ(七四三)。分家ヲナスノ要件次ノ如シ。(a)分家スル者ガ家族ナルコト(女戶主ノ夫、法定ノ推定家督相續人及其妻ヲ除ク)、(b)戶主ノ同意ヲ得タルコト、(c)未成年者ガ分家スルニハ親權者又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコト、(d)戶籍法ノ規定ニ從ヒ届出ヲナスコト之レナリ。尙ホ妻ハ當然夫ニ從ツテ分家ニ入ルモ其他ノ親族ヲ分家ニ伴ハントスルニハ分家ヲナス際ニ戶主ノ同意ヲ得ザル可ラズ(七四三IIII)。

廢絶家再興

(二) 廢絶家再興

廢絶家再興トハ一旦消滅シタル家ヲ再興セシムルコトヲ目的トスル法律行爲ナリ。而テ廢家ハ戶主ノ意思ニ基クモノニシテ、絶家ハ戶主ヲ失ヒタル家ニ相續人ナキ場合ニ於テ生ズ。廢絶家再興ノ場合ハ(a)家族ガ本家、分家、同家其他ノ親族ノ家ヲ再興スル場合(七四三I)(b)離婚又ハ離縁ニヨリテ復籍スベキ者ガ廢絶シタル實家ヲ再興スル場合(七四〇但書)(c)新ニ家ヲ創立シタル者ガ其家ヲ廢シテ他家ヲ再興スル場合(七六一)之レナリ(註)。

(註) 本家トハ分家ノ出タル家ヲ云ヒ、分家トハ本家ヨリ戶主ノ同意ヲ得テ分カレタル家ニシテ、同家トハ同一ノ本家ヨリ出タル分家相互間ノ關係ヲ云フ。此等ハ家ノ系統上ノ區別ナリ。又婚家トハ婚姻ニヨリ入りタル家ニシテ、養家トハ養子縁組ニヨリテ入りタル家ヲ云ヒ、實家トハ婚姻又ハ養子縁組ノ前ニ自己ノ屬シタリシ家ヲ云フ。

一家創立

(三) 一家創立

一家創立ハ法律ノ規定ニ基キ一家ガ創設セラルル場合ヲ云フ。其主要ナル場



合ハ(a)父母共ニ知レザルトキ(七三三、七三八)、(b)父母ノ家ニ入り得ザル私生子(七三五)、(c)實家ノ廢絶又ハ復籍拒絶ニヨリ實家ニ復籍シ得ザルトキ(七四〇、七四二)、(d)離籍サレタルトキ(七四二)、(e)絶家ニ家族アルトキ(七六四)、(f)父母共ニ國籍ヲ有セザルトキ(國籍法四)、(g)歸化人(同五ノ五號)、(h)國籍回復者(同二五)、(i)家族ガ援爵サレタルトキ(明治三八年法律第六二號)之レナリ。

**第二 家ノ消滅**

家ノ消滅原因トシテハ廢家及絶家ヲ舉グルコトヲ得。

廢家

(一) 廢家 廢家トハ戶主ガ其意思ニヨリ其家ヲ廢シ自己ノ家族ト共ニ他家ニ入ラントスル目的ヲ有シ且ツ届出ニヨリテ完成スル法律行為ナリ。廢家ヲ爲シ得ル場合ハ(a)新ニ家ヲ立テタル者ガ其家ヲ廢シテ他家ニ入ルトキ(七六一)、(b)家督相續ニヨリテ戶主トナリタル者ガ正當ナル理由ニ因リ裁判所ノ許可ヲ得タルトキ(七六二)之レナリ。

絶家

(二) 絶家 絶家トハ戶主ヲ失ヒタル家ニ家督相續人ナキ爲メ法律ノ規定ニ基キ其家ガ消滅スルコトヲ云フ(七六四)。

**第三節 戶 主**

**第一款 總 說**

家ハ上述ノ如ク戶主及家族ニヨリテ構成セラルルヲ原則トスレドモ、家族ハ必シモ家構成ノ絶對的要件ニハアラス。而テ戶主ハ今日ニ於テハ單ニ家族ニ對シテ法律上特別ナル地位ヲ有スルニ過ギズ。即チ戶主トハ家ノ構成分子ニシテ他ノ構成員即チ家族ヲ統轄監督スルモノヲ云フ。又家族トハ戶主權ニ服スル其家ノ構成分子タル者ノコトニ外ナラス。尙ホ現在ニ於テハ戶主權ハ單ニ特定ナル權利ノ集合ニシテソレガ戶主タル地位ニ集中セシモノニ過ギズシテ決シテ戶主タル地位ニ基ク包括的權利ニハアラザルナリ。又現在ニ於テハ戶主權ハ專ラ民法上ノ意義ノミヲ有ス。

**第二款 戶主ノ權利義務**

**第一 戶主權ノ性質**

戶主ノ權利義務ニハ明ラカニ戶主權ニ屬スルモノト然ラザルモノトノ別アリ。而テ戶主權トハ上述ノ如ク家族ヲ統轄監督スルガ爲メノ權利ナルヲ以テ此標準ニヨリテ或ル權利ガ戶主權ニ屬スベキモノナリヤ否ヤヲ分ツコトヲ要ス。戶主權ハ必要アル場合ニ於テハ親權者又後見人ニ依リ、此等ノ者ナキトキハ親族會ニ依リテ代理行使セラルルコトアルベク(八九五、九三四、七五一)又戶主權ハ戶主タル身分ノ得喪ニヨリテ其變動ヲ生ジ相續人ニ依リテ承繼セラレ得ルモノトス。

**第二 戶主權ニ屬スル權利**

戶主權ニ屬スル權利

戶主權ノ性質



我が民法ノ認メタル戸主權ニ屬スル權利中其主要ナルモノ次ノ如シ。

(一) 居所指定權(七四九I) 此權利ノ效果ハ(a)家族ガ之レニ違反シツツアル間戸主ハ扶養ノ義務ヲ免カレ(七四九II)、(b)相當期間内ニ移轉スベキ旨ノ催告ヲナスモ應ゼザルトキハ此者ヲ離籍スルコト(七四九III)ヲ得ルニ在リ。但シ未成年者、法定推定家督相續人又ハ妻ニ非ザル家族ニ對シテノミ離籍シ得ルモノトス(七四九III但書、七四四、七八九)。

(二) 同意權及離籍權並ニ復籍拒絶權 (a)家族ノ婚姻又ハ養子縁組ニ關スル同意權(七五〇I)ノ效果ハ消極的ニシテ、コノ權利ノ無視ハ離籍或ハ復籍拒絶ヲ生ズルノミ(七五〇II)。(b)離縁同意權(八六二III)、(c)私生子入籍同意權(七三五I)、(d)轉籍同意權(七三七、七三八、七四三III)、(e)他家相續、分家又ハ廢絶家再興ノ同意權(七四三) 以上(b)ヨリ(e)迄ノ同意權ノ效果ハ積極的ニシテ之レニ反スル行爲ハソレ自體無效トス。

(三) 婚姻又ハ縁組ノ取消權(七八〇、八五四)

(四) 無能力者保護ニ關スル權利義務(七、一〇、一三、九〇三、九〇九)

(五) 親族會ニ關スル權利義務(九四四、九四八、九五一)

(六) 扶養ノ義務(七四七)

第三 戸主權ニ非ザル戸主ノ權利義務

戸主權ニ非ザル戸主ノ權利義務

(イ) 氏ヲ稱スル權利(七四六)

(ロ) 隱居又ハ廢家ヲナスノ權利(七五二以下、七六二)

(ハ) 家督相續人ノ廢除又ハ指定ヲナス權利(九九五、九七九)

(ニ) 遺産相續權(九九六ノ三號)

要之、戸主權ニ非ザル戸主ノ權利義務ハ専ラ一身ニ專屬スル權利(九八六)タルノ性質ヲ有スルモノ及戸主ノ特有財産(七四八、九九〇)ノ如キモノナリトス。

第三款 戸主タル身分ノ得喪

戸主タル身分ノ取得ニハ原始的ノモノト繼受的ノモノトアリ。家ノ設立ノ場合ハ前者ニシテ家督相續及入夫ノ場合(七三六)ハ後者ニ屬ス。但シ入夫ノ場合ニ於テ婚姻ノ當時女戸主トノ間ニ反對ノ意思表示アリシトキハ例外トス。戸主權ノ喪失ニモ絶對的ノモノト然ラザルモノトアリ。前者ハ家ノ消滅ノ場合ニシテ、後者ハ家督相續、女戸主ノ入夫婚姻、入夫ノ離婚又ハ入夫婚姻ノ取消及隱居之レナリ。以下ニ於テハ隱居ニ付キテノミ説明シ他ハ相續法ニ於テ論及セントス。

第一 隱居ノ意義

隱居トハ戸主ガ家督相續人ヲシテ戸主權ヲ承繼セシムル爲メニ自カラ之レヲ拋棄スル單獨行爲

隱居ノ意義



ナリ。元來コノ制度ハ家族制度的現象トシテ諸國ニ行ハレタルモノニシテ、一面ニ於テハ遊惰安逸ノ風ヲ助長スルノ虞レアリト雖モ他面ニ於テハ不適任者ヲシテ適任者ニ代ラシムルノ點ニ於テ其長所ヲ有ス。

### 第二 隱居ノ要件

(一) 普通ノ隱居ノ場合 此場合ニ於テハ即チ(イ)戸主ノ年齢ハ滿六十年以上ナルコト(ロ)完全ノ能力ヲ有スル家督相續人ガ相續ノ單純承認ヲ爲スコト(ハ)隱居者ノ自由意思ニ基クコト(ニ)隱居者及家督相續人連署ニテ戸籍吏ニ届出ルコト(七五七四三以下)之レナリ。戸籍吏ガ右ノ届出ヲ受理スルニ因リテ隱居ハ完成ス。

### (二) 特別ノ隱居ノ場合

(イ) 戸主ガ疾病、本家相續又ハ再興、其他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ爾後家政ヲ執ルコト能ハザルニ至リタルトキ 此場合ニ於テハ(a)裁判所ノ許可ヲ得ルコト、(b)隱居者ニ自由意思アルコト、(c)届出ヲナスコト、(d)隱居者ニ法定推定家督相續人ナキトキハ豫メ家督相續人タル可キ者ヲ定メ其承認ヲ得ルコトヲ要ス(七五三)。此場合ニ於テハ隱居ヲナスニ付キ年齢上ノ制限ナシ。

(ロ) 戸主ガ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラントスルトキ 此場合ニ於テハ上述(イ)ノ場合ト大體ニ於テ同様ナル要件ヲ具備スルヲ要スルモ年齢上ノ制限ナキコトハ勿論ナリトス(七五四一)。又曰

隱居ノ要件  
普通ノ隱居ノ場合

特別ノ隱居ノ場合

主ガ隱居ヲ爲サズシテ婚姻ニ因リ他家ニ入ラント欲スル場合ニ於テ戸籍吏ガ其届出ヲ受理シタルトキハ其戸主ハ婚姻ノ日ニ於テ隱居シタルモノト看做サル(七五四二)。

(ハ) 女戸主ノ隱居ノ場合 此場合ニ於テハ大體ニ於テ(イ)ノ場合ト同様ナルモ、年齢上ノ制限ナク又女戸主ニ夫アルトキハ其夫ノ同意アルコトヲ要ス(七五五二)。尙ホ隱居ニ付キテハ無能力者ハ法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セザル旨ノ規定アルコトニ注意セザル可ラズ(七五六)。

### 第三 隱居ノ效力

有效ナル隱居ニ因リテ(イ)隱居者ハ家族トナリ(七三二二)(ロ)家督相續ハ開始サル(九六四)。尙ホ隱居者ハ(ハ)確定日附アル證書ニ依リテ其財産ヲ留保スルヲ得ベク(九八八)(ニ)新戸主ト共ニ自己ノ債權者及債務者ニ通知義務ヲ負フ(七六一)。

### 第四 隱居ノ無効及取消

隱居ノ意思ナキ場合及其届出ナキ場合ニ於テハ隱居ハ無効ナルモノトス。而テ第七五二條又ハ第七五三條ノ規定ニ違反シタルトキ及女戸主ガ夫ノ同意ナクシテ隱居シタルトキ竝ニ隱居ガ詐欺又ハ強迫ニ出タルトキハ訴ニヨリテ之レヲ取消スコトヲ得ルモノトス(七五八、七五九)。

隱居ノ效力

隱居ノ無効及取消

## 第四節 家族



第一 家族ノ意義及範圍

家族トハ一家ノ構成員ニシテ戸主權ニ服スルモノヲ云フ。而テ家族ハ原則トシテ戸主ノ親族又ハ其配偶者ナルモ(七三二I)、舊戸主及其家族(七三二II)、現行民法施行前ヨリノ家族(民六六二)及第七三二條ニヨル入籍者中ニハ現戸主ノ親族ナラザル者モアリ得ベシ。

第二 家族ノ權利義務

家族ノ有スル權利義務ハ一身ニ專屬スルモノニシテ家族タル身分ノ喪失ニヨリテ消滅スルモノトス。家族ノ有スル權利義務中其主要ナルモノ次ノ如シ。即チ(イ)戸主權ニ服スル義務(ロ)氏ヲ稱スル權利(ハ)扶養ヲ受クル權利(ニ)特有財産ヲ有シ得ルコト(七四八I)之レナリ。

第三 家族タル身分ノ得喪

家族タル身分ノ得喪ハ總テ原始的ナルモノニシテ其原因次ノ如シ。(イ)出生(七三三I II、七三四、七三五I II、八三三)、(ロ)婚姻又ハ養子縁組(七八八、八六一、七三九)、(ハ)相續(九七九、九八五、一〇一七、九八六)、(ニ)轉籍(婚姻ノ場合七八八、養子縁組ノ場合八六一、轉籍及轉縁組ノ場合七四一I、復籍ノ場合七三九、親族入籍ノ場合七三七、引取入籍ノ場合七三八、分家入籍ノ場合七四三II III、隨伴入籍ノ場合七四五、七五〇III、七六三、七六四)、(ホ)死亡、(ヘ)他家相續、分家、廢絶家再興(七四三)、(ト)家族ノ授爵、(チ)絶家ニ殘リシ家族(七六四)、(リ)國籍喪失。

第四章 婚 姻

第一節 婚姻ノ意義及沿革

第一 婚姻ノ意義

婚姻トハ一男一女ノ法律的結合關係ニシテ畢生ノ共同生活ヲ目的トスルモノヲ云ヒ、又場合ニヨリテハ右ノ結合關係ヲ創設スル當事者ノ意思表示ヲ指スコトアリ。即チ婚姻ナル語ハ夫婦關係ヲ指稱スルコトアリ(例七九二、八二〇I)、或ハ婚姻契約ヲ意味スルコトアリ(七六五以下)。而テ婚姻契約ハ契約ノ一種ナレドモ親族法上ノモノナルヲ以テ通常ノ意義ニ於ケル契約トハ多少其性質及效力ヲ異ニスルトコロアリ。

第二 婚姻ノ沿革

婚姻ハ古來ヨリ實ニ社會生活ノ基礎ニシテ親族關係ノ源泉ヲナシタルモノトス。然レドモ婚姻ノ様式内容ニ至リテハ各時代ノ社會的並ニ經濟的狀態ノ如何ニヨリテ必シモ同ジキヲ得ズ。其始メニ於テハ亂婚制ニシテ之レヨリ定婚制ニ進ミ更ニ現代ノ如ク一夫一婦ノ制度ニ至リタルモノトス。又其形式ニ於テモ掠奪婚ヨリ賣買婚、贈與婚ニ進ミ、遂ニ共諾婚トナリタルモノナリ。但シ此等ノ點ニ付キテモ固ヨリ學者間ニ異說ナキニアラズ。斯ノ如ク婚姻ハ時代ノ變遷ト共ニ其内容法



式ヲ變ズルモノナルヲ以テ、婚姻ノ意義及要件ヲ定ムルニ付キテモ此點ニ考慮ヲ拂フコトヲ要ス。我が民法ニ於テハ婚姻ハ届出ヲ要件トナスモノナレドモ固ヨリ同棲事實ガ其基礎ヲナスベキモノナルコト一點ノ疑ヲ容レズ。從ツテ同棲ノ事實ナキ單純ナル届出ハ何等ノ意義ヲモ生ズルモノニアラズ。我國ニ於ケル婚姻届出主義ニ關シテハ從來其當否ニ付キテ議論少ナカラズ。元來婚姻ハ一面ニ於テ社會的性質ヲ有スルモノナルヲ以テ届出ヲ要件トナスヲ正當トスベキモ(イ)同棲ナル事實ガ婚姻ノ基礎ヲナスコト、及(ロ)實際上ニ於テ我國從來ノ慣習上ノ見解トノ二點ヨリシテ裁判上若クハ立法上適當ナル調節手段ヲ採ルベキヲ妥當ナリトス(民法親族編中改正要綱第十二參照)。

## 第二節 婚姻ノ成立

### 第一款 婚姻ノ成立要件

婚姻ガ完全有效ニ成立スルガ爲メニハ次ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス。

- (一) 實質的要件 實質的要件ニハ(a)當事者ガ婚姻ヲ爲ス意思ヲ有スルコト(七七八ノ一號)、(b)當事者タル男女ガ婚姻適齡ニ達シタルコト(七六五)、(c)配偶者ナキコト(七六六)、(d)女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六ヶ月以上ヲ經過セルコト(七六七、例外七六七)、(e)相姦者ニ非ザルコト(七六八)、(f)近親間ノ婚姻ナラザルコト(七六九乃至七七二)、(g)父母又ハ後見人或ハ親族會ノ同意アルコト(七七

實質的要件

二乃至七七四)、(h)家族ノ婚姻ニ付テハ戶主ノ同意アルコト(七五〇I)、(i)増養子縁組ノ場合ニハ縁組ガ有效ナルコト(七八六)等アリ。

(二) 形式的要件 形式的要件トシテハ市町村長ニ對スル届出アリ(七七五I)。届出ハ戶籍法ノ定ムル手續ニ從ヒテ之レヲ爲スベク(戶一〇〇、一〇三、五七)、其届出ハ市町村長ノ受理ニヨリ完成ス。

形式的要件

### 第二款 婚姻ノ豫約

婚姻ノ豫約ハ、其本來ノ意義ニ於テハ將來ニ於テ適法ナル婚姻ヲナスコトヲ目的トスル契約ニシテ、此意義ニ於テハ法律上無効ナルモノトス。蓋シ婚姻ノ當時ニ於テ互ニ自由意思ヲ保有スベキ當事者ガ豫約ニヨリテ拘束セラルルガ如キハ婚姻ノ本質ニ反シ公序良俗ニ反スルガ爲メナリ。然ルニ最近ニ至リ大審院ハ將來ニ於テ適法ナル婚姻ヲ爲スコトヲ目的トスルモ而モ當事者ハ之レニヨリテ互ニ相手方ヲ婚姻締結ニ迄強制シ得ザル契約ヲ有效ナリトシ、此種ノ契約ヲ婚姻ノ豫約ナリト稱シタリ(大正四年一・二六日民事聯合部判決)。但シ此判決ハ當事者間ニ事實上ノ同棲關係アリ乍ラ婚姻即チ届出ヲ爲サザル場合ニ於ケルモノナルガ如シ。思フニ婚姻ノ如キ身分上ノ約束ニ對シテハ決シテ債權契約ナル觀念ヲ以テ臨マザルヲ可トス。大審院ノ前記ノ判例ノ如キモ所謂内縁ノ妻ノ救済ト云ヘル點ヨリ見テ至當ナル判決ナレドモ、其理由ニ至リテハ未ダ必シモ一概ニ賛意ヲ



表シ難シ。即チ婚姻ノ豫約ハ身分法上ノ契約ニシテ婚約者タル地位ヲ生ゼシムルモノナリ。從ツテ後日ニ至リ正當ノ理由ナクシテ婚姻ヲ拒絶セルトキハ拒絶者ノ不法行爲ヲ形成スルガ故ニ之レニ對シテ損害ノ賠償ヲ爲シ得ルモノトス。

### 第三款 婚姻ノ無効及取消

婚姻ノ無効

#### 第一 婚姻ノ無効

民法ノ定ムル婚姻無効ノ原因ハ二アリ。即チ届出又ハ婚姻意思ノ欠缺之レナリ(七七八)。然レドモ届出欠缺ノ場合ニ於テハ婚姻ハ成立スルモ效力發生セザルモノニシテ、婚姻意思欠缺ノ場合ニ於テハ婚姻自體ガ不成立ナリトス。兩者ノ間ニハ右ノ如キ差異アレドモ均シク無効ニシテ何人ヨリモ其無効ノ主張ヲ爲ス得ベク、又爭アルトキニ限り無効確認ノ訴ヲ要スルモノトス(人訴第一章)。

#### 第二 婚姻ノ取消

婚姻ノ取消

當事者ノ意思ニ瑕疵アリ又ハ第一ノ場合以外ノ實質的要件ノ一ヲ缺クトキハ婚姻ハ之レヲ取消スコトヲ得(七七九)。婚姻ノ取消ハ取消ノ訴ニ基ク裁判所ノ判決ニヨリテ行ハル(人訴第一章、戸一〇二)。而テ主トシテ公益上ノ理由ニ基ク取消ノ場合(實質的要件中ノ(b)乃至(f)ヲ缺ク場合)ニ於テハ、各當事者、其戸主、親族又ハ檢事ヨリ其取消ヲ請求スルコトヲ得ベク(七八〇乃至七八二)、又私益上ノ

取消ハ當事者ノ意思ニ瑕疵アリ或ハ實質的要件中(g)(h)(i)ヲ完備セザル場合ニ於テ行ハレ、其取消權ハ同意權者又ハ當事者ノミ之レヲ行使スルコトヲ得ベク、第一ノ場合ト異ナリ期間經過又ハ追認ニヨリテ消滅スルモノトス(七八三乃至七八六)。尙ホ婚姻取消ニ關スル規定ハ總則編ノ法律行爲ノ取消ニ關スル規定ノ特別規定ヲ爲シ、總則ノ規定ノ適用アルコトナシ(七七九)。又取消ノ效力ハ既往ニ遡及スルコトナシ。

### 第三節 婚姻ノ效果

婚姻ノ效果ハ社會思想、經濟狀態ノ變遷ニヨリ古來幾多ノ變化アリタルモノトス。而テ我が民法ハ我國舊來ノ思想ニ立脚シ男女間ニ多少ノ差別ヲ設ケタルナリ。然レドモ社會ノ大勢ハ男女平等ノ目標ニ向ヒツツアルヲ以テ、我が民法ノ規定ノ研究ニ際シテモ此點ニ留意スルヲ要ス。婚姻ノ效果ヲ分チテ身分上ノモノト財産上ノモノトノ二ト爲スコトヲ得。

#### 第一 身分上ノ效力

身分上ノ效果ノ中其主要ナルモノ次ノ如シ。

(イ) 妻ノ無能力 妻ハ共同生活ノ圓滑ヲ計ル必要上、民法總則編ノ規定ニ從ヒ(一四乃至一八)無能力者タルノ取扱ヒヲ受クルモノトス。

身分上ノ效力



(ロ) 同居ノ權利義務 妻ハ夫ト同居スルノ義務ヲ有スルト共ニ夫ハ自己ノ選定シタル住居ニ妻ヲ同居セシムルノ權利義務ヲ有ス(七八九)。但シ此處ニ云フ同居ノ義務ハ單純ナル居所指定ノ點ニアラズシテ、夫婦ガ互ニ其相手方ニ對シテ或ル程度ノ身體上ノ拘束ヲ爲スコトヲ得ルノ意ニシテ結局或ル意味ニ於テノ夫婦相互ノ貞操義務ノコトヲ指ス。

(ハ) 扶養ノ義務(七九〇)

(ニ) 入家ノ義務(七八八)

(ホ) 未成年者タル妻ニ對シテ成年ノ夫ガ其後見人タル職務ヲ行フ權利(七九二)

(ヘ) 契約取消權(七九二)

(ト) 親族關係ノ發生 婚姻ニ因リ夫婦ハ親族トナリ(七二五ノ二號) 又各自ノ配偶者ノ血族トモ親族トナルモノトス。其他第七二八條、第七三三條一項、第八二〇條等ノ適用ヲ生ズ。

(チ) 家族關係ノ變動 婚姻ニヨリテ通常妻ハ實家ヨリ離籍シ、女戸主ハ家族トナル。

財産上ノ效力

第二 財産上ノ效力

婚姻ニヨリテ夫婦ハ共同生活ヲ營ムモノナルヲ以テ、其財産上ノ關係ニ付テモ何等カノ規定アルコトヲ要ス。我が民法ニ於テハ夫婦財産契約アルトキハ之レニ依リ、之ナキトキハ法定財産制ニヨルモノトナセリ(七九三)。

夫婦財産契約

(一) 夫婦財産契約 夫婦ハ婚姻届出前ニ於テ婚姻中ニ於ケル財産關係ノ合意ヲ爲シ、之レヲ婚姻ノ届出前ニ登記スルニヨリテ夫婦財産契約ハ完成ス(七九四)。而テ其内容ハ當事者ノ任意ニ之レヲ定ムルコトヲ得ルモ、婚姻ノ届出後ハ之レヲ變更シ得ザルヲ原則トス(七九六)。但シ管理ノ失當ニヨリ其財産ヲ危クシタル場合ニ於ケル管理者ノ變更及共有財産ノ分割ノ場合ハ例外トス(七九六)。尙ホ此二箇ノ場合ニ於テハ直チニ其旨ヲ登記セザレバ之レヲ以テ夫婦ノ承繼人及第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ(七九七)。

法定財産制

(二) 法定財産制 夫婦ガ夫婦財産契約ヲ爲サザリシトキハ法定財産制ニ從フ(七九三)。法定財産制ノ大要次ノ如シ。(a) 夫婦ハ各別ニ特有財産ヲ有ス。即チ妻又ハ入夫ハ婚姻前ヨリ有セル財産及婚姻中自己ノ名ニ於テ得タル財産ヲ自己ノ所有トシ、所屬不明ノ財産アルトキハ夫又ハ女戸主ノ財産ト推定ス(八〇七)。(b) 婚姻ヨリ生ズル一切ノ費用ハ夫又ハ女戸主ノ負擔トス(七九八)。(c) 夫又ハ女戸主ハ用方ニ從ヒテ其配偶者ノ財産ノ使用及收益ヲ爲スコトヲ得(七九九)。(d) 夫ハ財産ノ管理權ヲ有ス(八〇一)。(e) 妻ハ日常ノ家事ニ付テハ夫ノ代理人ト看做サル(八〇四)。(f) 但シ妻ノ代理權ハ夫ニ於テ全部又ハ一部之レヲ否認スルコトヲ得ルモ之レヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ(八〇四)。



## 第四節 婚姻ノ解消

### 第一款 死亡

婚姻ハ當事者一方ノ死亡ニ因リテ解消ス。失踪宣告モ亦死亡ト同様ナル效果ヲ生ズ(三一、三二)。但シ死亡ハ單ニ夫婦タル身分關係及其財産上ノ關係ヲ消滅セシムルニ過ギズシテ、婚姻ニヨリ生ジタル親族關係竝ニ家族關係ハ仍ホ依然トシテ存續スルモノトス(七二九、七三九、七七〇)。生存者ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間ノ扶養ノ權利義務ハ婚姻ノ解消ニヨリテ消滅スルコトナシ(九五四)。

### 第二款 離婚

婚姻ニ因リテ生ジタル一切ノ關係ヲ消滅セシムルモノハ離婚ナリ。離婚ニ關シテハ從來自由離婚制、離婚禁止制及制限離婚制ノ三箇ノ主義アリ。離婚禁止制ハキリスト教ノ影響ニシテ歐米諸國ハ此影響ニヨリテ離婚禁止制ノ傾向著シキモ、斯ノ如キハ人情ニ合セザル主義ナリトス。然レドモ又自由離婚モ社會ノ秩序維持ト云ヘル點ヨリシテ面白カラズ。結局一定ノ原因ニ限り離婚ヲ許ストスル制限離婚制ヲ以テ妥當ナリトス。我國ハ裁判上ノ離婚ニ付テハ制限離婚制ヲ採用シ、

協議上ノ  
離婚

協議上ノ離婚ニ付テハ自由離婚制ヲ採ル。協議上ノ離婚制ニ關シテハ其當否ニ付キ議論アリ。思フニコノ制度自體ハ必シモ不當ニハアラザレドモ、何等カノ制限ヲ設ケザルニ於テハ其弊害少ナカラザル可シ。尙ホ我が民法ノ列舉スル離婚ノ法定原因ハ未ダ以テ充分ナルモノト云フヲ得ズ。

#### 第一 協議上ノ離婚

協議上ノ離婚トハ夫婦ノ生存中協議ヲ以テナス婚姻ノ解消ヲ云フ(八〇八)。此種ノ離婚ノ成立要件ハ(a)夫婦ニ離婚ノ意思アルコト、(b)二十五年未滿ノ者ハ一定ノ者ノ同意ヲ得タルコト(八〇九、七七二乃至七七四)、(c)戸籍吏ニ其旨ヲ届出ルコト(八一〇、七七五)之レナリトス。而テ戸籍吏ガ其届出ヲ受理シタル時ヲ以テ離婚ハ完成ス。尙ホ此場合ニ於テハ婚姻ノ場合ニ於ケルガ如ク其無効及取消ニ關スル特別ナル規定ナキヲ以テ、一般ノ原則ニ從ヒテ之レヲ決スルヲ可トス。

#### 第二 裁判上ノ離婚

裁判上ノ離婚トハ夫婦ガ法律上ノ原因アル場合ニ於テ、其一方ノ請求ニ基キ裁判所ガ判決ヲ以テナス婚姻ノ解消ヲ云フ。民法ガ法律上ノ原因トシテ列舉スルモノハ、第八一三條一號乃至十號ニ規定アリ。但シ此等ノ原因アルモ一定ノ場合即チ離婚原因ニ對スル同意(八一四ノ一)、宥恕(八一四ノ二)、同一事由ノ存在(八一五)、期間ノ經過(八一六、八一八ノ二)、配偶者ノ生死分明(八一七)、離婚請求權ノ拋棄ノ場合ニ於テハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ズ。

裁判上ノ  
離婚



第三 法律上ノ離婚

夫婦ガ養子トナリ又ハ養子ガ養親ノ他ノ養子ト婚姻シタル場合ニ於テ妻ガ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルベキトキハ、夫ハ其選擇ニヨリ離縁又ハ離婚ヲナスコトヲ要ス(八七六)。

第四 離婚ノ效果

離婚ハ將來ニ向ツテ婚姻關係ヲ消滅セシメ且ツ婚姻ニヨリ生ジタル一切ノ關係ヲモ同時ニ終了セシムルモノトス。其主要ナル效果次ノ如シ。(a)同居義務ノ消滅(七八九)、(b)夫婦間ノ契約ハ取消シ得ザルモノトナル(七九二)、(c)復籍(七三九、七四〇)、(d)妻ノ無能力ノ消滅、(e)夫婦間ノ親族關係、婚姻關係其他繼親子又ハ嫡母庶子ノ關係ハ消滅ス(七二九I)、(f)再婚ノ可能(例外トシテ七六七、七六八、七七〇)、(g)夫婦間ノ財産關係ノ消滅、(h)夫婦間ニ子アルトキハ裁判所ノ命令ニヨリ又ハ協議ヲ以テ子ノ監護者ヲ定メ、其協議ナカリシトキハ離婚ニヨリテ其家ニ留マル者ノ監護ニ屬ス(八一ニ、八一九)。

第五章 親子

第一節 實子

實親子トハ自然ノ作用ニヨリテ生ジタル親子ノ關係ニシテ、其子ハ即チ實子タリ。之レニ嫡出

子、私生子及庶子ノ別アリ。

第一款 嫡出子

第一 嫡出子ノ意義

嫡出子トハ婚姻ニヨリテ出生シタル子ヲ云フ。故ニ嫡出子タル爲メニハ(イ)父母ノ婚姻中ニ妻ガ受胎シタルコト(ロ)夫ノ子ナルコト(ハ)母ノ分娩シタル子ナルコトノ三要件ヲ具備スルコトヲ要ス。從ツテ婚姻前ニ懷胎シ婚姻中ニ生レタル子ハ假令事實上ハ其父母ノ子ナル場合ト雖モ當然ニハ其父母ノ嫡出子ナリト云フコトヲ得ザルモノトス。但シ此場合ニ於テハ第八三六條二項ニヨリ其子ハ嫡出子タル身分ヲ取得シ得ルモノナリ。

第二 嫡出子ノ推定

嫡出子ノ要件ハ上述ノ如クナレドモ、實際問題ニ於テハ屢々或ル子ガ果シテ右ノ要件ヲ具備スルモノナリヤ否ヤヲ立證スルニ困難ナル場合少ナシトセズ。即チ上述ノ要件中(イ)父母ノ間ニ婚姻アリタルコト及(ロ)母ノ分娩シタル子ナルコトノ二點ハ之レガ立證容易ナレドモ、(イ)婚姻中ニ懷胎シタルコト及(ロ)父ノ子ナルコトノ二點ハ其立證頗ル困難ナリ。從ツテ民法ハ社會ノ通常ノ觀念ニ立脚スルト共ニ、社會ノ秩序ノ維持ヲ計ルガ爲メ、此點ニ關シテ法律上ノ推定ヲ設ケタ



リ。即チ婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日以内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定シ、且ツ妻ガ婚姻中懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定シタリ(八二一I II)。從ツテ此場合ニ於テ他人ノ子ナルコトヲ主張スル者ハ其立證ヲナスベク、此場合以外ニ於テ夫ノ子ナリト主張スルニハ、主張者之レヲ立證セザル可ラズ。尙ホ女ガ再婚禁止期間内ニ再婚ヲ爲シタル場合ニ於テ若シ其女ガ新婚成立後二百日以内ニ、又前婚解消後三百日以内ニ於テ分娩ヲナシタルトキハ、前條ノ規定ニヨリ其子ノ父ヲ定メ難キヲ以テ、此場合ニ於テハ裁判所ノ認定ニ其決定ヲ一任スベキモノトス(八二一、八二七、三〇)。

### 第三 嫡出子否認ノ訴

嫡出子ノ推定ハ否認ノ訴ニヨリテ之レヲ打破スルコトヲ得。即チ夫ハ其子又ハ其法定代理人ニ對スル訴ニヨリテ嫡出子ノ推定ヲ否認スルコトヲ得ベシ。但シ夫ガ子ノ法定代理人ナルトキハ裁判所ハ特定代理人ヲ選任スルコトヲ要スルモノトス(八二二、八二三)。尤モ夫ガ禁治産者ナルトキハ其後見人ガ親族會ノ同意ヲ得テ、又夫ノ死後ハ其子ノ爲メ相續權ヲ害セラルベキ者其他夫ノ三親等内ノ血族ヨリ、右ノ否認ノ訴ヲ提起シ得ルモノナリ(八二八、二九)。此嫡出子否認權ハ(イ)夫ノ嫡出ノ承認(八二四)ニヨリ、又ハ(ロ)法定期間ノ滿了(八二五、八二六)ニヨリテ消滅ス。

嫡出子否認ノ訴

## 第二款 私生子及庶子

私生子及庶子ノ意義

第一 私生子及庶子ノ意義  
私生子トハ婚姻ニヨラズシテ出生シタル子ヲ云フ。私生子ノ取扱方法如何ニ付テハ議論アリテ一致セズ。多數ノ立法ハ社會秩序維持、道義觀念上ノ見解ヨリシテ嫡出子ト私生子トノ間ニハ種種ナル差別ヲ設ケタリ。私生子ニシテ父ニヨリテ認知セラレタルモノヲ庶子トス(八二七II)。

私生子ノ認知

### 第二 私生子ノ認知

私生子ノ認知トハ父又ハ母ガ或ル私生子ヲ自己ノ子ナリト承認スル單獨行爲ヲ云フ(八二七I)。從ツテ認知權者ハ父又ハ母ニシテ、其父又ハ母ガ無能力者ナルトキト雖モ認知ニ對シテハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セザルモノトス(八二七、八二八)。認知セララル者ハ父又ハ母ヨリ認知セラレザル私生子、胎兒及私生子トシテ死亡セル者ニシテ、其私生子ガ成年ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス(八二七、八三一、八三〇)。認知ハ戶籍吏ニ届出ツルニ依リ之レヲ爲ス。尙ホ遺言ニヨリテモ之レヲ爲スコトヲ得ルモノトス(八二九)。又認知ノ效力ハ出生ノ時ニ遡ルヲ原則トスルモ、之レガ爲メ第三者ガ既ニ取得シタル權利ハ之レヲ害スルコトヲ得ズ(八三二)。以上ノ如ク母モ亦認知スルコトヲ得ルモ、通常母子間ノ關係ハ出生ナル事實ニヨリテ定メラレ、母ガ認知ヲナスベキ



場合ハ極メテ稀ナルベシ。又認知ハ之レヲ撤回シ得ザルモノトス(八三三)。尙ホ私生子トシテノ認知ハ重大ナル利害關係アルモノナルヲ以テ、私生子、其直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得ベク(八三五)且ツ又私生子其他ノ利害關係人ハ認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス(八三四)。最後ニ認知ノ無效及取消ニ關シテハ民法總則ノ規定ノ適用アルモ、其主張ハ必ズ訴ニ依ルヲ要ス(人訴第二章)。

第三 準正

準正ハ嫡出子ニ非ザル者ガ其身分ヲ取得スル場合ヲ云ヒ、即チ(イ)庶子ハ其父母ノ婚姻ニヨリ其時ヨリ(ロ)婚姻中父母ガ認知シタル私生子ハ其認知ノ時ヨリ(八三六一)嫡出子タル身分ヲ取得スルモノトス。(イ)及(ロ)ノ場合ニ於テ既ニ其子ガ死亡セルトキト雖モ右ノ規定ノ適用アリ(八三六)。

第二節 養子

第一款 總說

養子制度ノ可否

第一 養子制度ノ可否

養子制度ハ元來家ノ繼續ト祖先ノ祭祀ヲ絶サザルノ目的ニ出ヅルモノニシテ、我國ニ於テハ從

來其必要ヲ感ジ來リタルモノナリ。蓋シ此制度ハ一面ニ於テ養子タル者ノ人格ヲ無視スルノ傾向ヲ有シ又今日ニ於テハ其存在理由ナシ等ト云ヘル批難アルモ、他面ニ於テハ上述ノ如キ實際上ノ必要アルト共ニ、或ル意味ニ於テ人間自然ノ人情ニモ合スルトコロアルヲ以テ、少ナクトモ我國ニ於テハ此制度ノ存在理由ヲ認メザル可ラザルモノトス。

第二 養子縁組ノ意義及種類

養子縁組ノ意義及種類

養子縁組トハ養親子關係ヲ發生セシムルコトヲ目的トスル親族法上ノ契約ナリ。而テ其主ナル種類ハ通常ノ養子縁組及婿養子縁組並ニ生前養子及遺言養子之レナリ(八三九、八四八)。婿養子縁組ハ所謂女婿トナス爲メニスル養子縁組ニシテ、養子縁組ト同時ニ婚姻ヲモ成立セシムルモノヲ云フ。

第二款 養子縁組ノ成立

第一 實質的要件

實質的要件

(イ) 當事者ガ縁組ヲ爲ス意思アルコト(八五一) 但シ(1)配偶者アル者ガ其配偶者ト共ニ縁組ヲナス場合ニ、夫婦ノ一方ガ其意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ、他ノ一方ハ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得(八四二)。(b)養子トナル可キ者ガ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之レニ



代リテ縁組ノ承認ヲ爲スコトヲ得(八四三、八四六、七七二五五)

(ロ) 養親タルベキ者ガ成年者ニシテ、養子タルベキ者ヨリ年長者ナルコト(八三七、八三八)

(ハ) 養子タルベキ者ガ尊屬(八三八)又ハ被後見人ナラザルコト(八四〇)

(ニ) 女孀ノ場合ヲ除ク外法定推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子トナスヲ得ザルコト(八三九)

(ホ) 配偶者アル者ハ必ズ其配偶者ト共ニ縁組ヲナスコト、但シ夫婦ノ一方ガ他方ノ子ヲ養子トスルニハ他方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ルコト(八四二)

(ヘ) 父母又ハ之ニ代ル者竝ニ戸主ノ同意ヲ得ルコト(八四四、八四六、八四五、八四六)

第二 形式的要件

形式的要件ハ縁組ノ届出ヲ市町村長ニナスコトナリ(八四七、七七五、八八八以下)。

第三款 養子縁組ノ無効及取消

養子縁組ノ無効及取消ニ關スル民法ノ規定ノ趣旨ハ大體ニ於テ婚姻ノ無効及取消ニ關スル規定ト同様ナルヲ以テ、此問題ニ付テハ前ニ婚姻ニ關シテ爲シタル説明ヲ參照スベシ(八五一、八五三乃至八五九)。

形式的要件

第四款 養子縁組ノ效果

(イ) 養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得スルヲ以テ(八六〇)養子ト養親及其血族トノ間ニハ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生ズ(七二七)。從ツテ(1)養子ト養親トノ間ニ相續權ヲ生ゼシメ(九七〇、九七三、九八四以下)(2)養子ハ養親ノ親權ニ服シ(八七七)(3)婚姻ニ或ル障礙ヲ生ゼシメ(七六九、七七二)(4)養子ト養親及其血族トノ間ニ扶養ノ權利義務ヲ生ゼシムルモノトス。  
(ロ) 養子ハ戸内養子ニ非ザル限り縁組ニヨリテ養親ノ家ニ入ル(八六一、七四六)。

第五款 養子縁組ノ解消(離縁)

第一 離縁ノ要件

離縁ニ關スル民法ノ規定ハ大體ニ於テ離婚ノ規定ニ同ジク、離縁ヲバ協議上ノ離縁(八六二)ト裁判上ノ離縁(八六六、八六七)竝ニ法律上ノ離縁(八七六)トニ分チタリ。協議上ノ離縁ニ付キテ特有ナルモノハ(イ)養子ガ十五年未滿ナルトキハ養親ト實家ノ父母ト協議ニヨリテ離縁ヲナシ得ルコト(八六二II)、(ロ)養親死亡後ニ於テ戸主ノ同意ヲ得テ離縁ヲ爲シ得ルコト(八六二III)之レナリ。尙ホ養子ガ戸主トナリタル後ハ協議上ノ離縁モ裁判上ノ離縁モ共ニ之レヲ許サザルモノトス(八七四)。

離縁ノ要件



從ツテ養子ガ法定推定家督相續人ナルトキト雖モ又一度戸主トナリタル後隱居シタルニ於テハ同  
ジク離縁シ得ルモノナリ(八七四但書)。而テ裁判上ノ離縁ニ於テハ一定ノ原因(八六六乃至八七三)アル  
場合ニ於テ、當事者又ハ縁組承諾權ヲ有スル者ヨリ相手方ニ對スル訴ニヨリテ之レヲナス(人訴二  
四乃至二六)。法律上ノ離縁ニ付キテハ法律上ノ離婚ニ關スル説明ヲ參照スベシ。

離縁ノ效  
果

第二 離縁ノ效果

離縁ニヨリ養子ト養親及其血族トノ間ノ親族關係ハ消滅シ(七三〇、七七二)、養子ハ實家ニ復籍シ  
(七三九)其縁組前ニ實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復ス(八七五)。然レドモ第三者ノ既得ノ權利ハ之レヲ  
害スルコトヲ得ザルナリ(八七五但書)。尙ホ夫婦養子ノ場合ニ於テ夫ノミガ離縁サレタル場合ニ於  
テ妻ハ夫ニ伴ツテ當然ニ養家ヲ去ル(七四五)。

第六章 親 權

第一節 總 說

親權ノ意  
義

第一 親權ノ意義

親權トハ父又ハ母タル身分ニ基キ其家ニ在ル子ニ對シテ存スル身分上竝ニ財産上ノ監督保護ヲ  
内容トスル權利義務ノ集合ナリ(八七七)。元來親權ナル制度ハ純粹ナル個人制度ノ結果タル可キモ

ノナレドモ、上述ノ如ク我國ニ於テハ過渡期的見解ニヨリテ家族制度的產物タル戸主權ト個人制  
度的產物タル親權トヲ併存セシメタルモノトス。要スルニ親權ハ子ノ利益保護ノ爲メニ設ケラレ  
タルモノナルヲ以テ、其根本趣旨ヲ忘ル可ラズ。從ツテ親權ノ行使ハ結局權利ノ行使ナルト同時  
ニ其義務ナリト云フ可シ(法學研究三卷一號所載拙稿二八頁以下參照)

第二 親權者及親權ニ服スル者

親權者タルベキ者ハ原則トシテ子ト其家ヲ同ジウスル父ニシテ(八七七I)父ガ家ニ在ラザルトキ  
又ハ親權ヲ行ヒ得ザルトキハ母之レヲ行フ(八七七II)。尙ホ父母共ニ家ニ在ラザルトキ又ハ親權ヲ  
行ヒ得ザルトキハ後見人ヲ選任セザル可ラズ。又父ハ單獨ニテ親權ヲ行使シ得ルモ、母ハ重要ナ  
ル行爲ニ付テハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(八八六、八八七)。尙ホ繼父、繼母又ハ嫡母ガ親權ヲ  
行フ場合ハ後見ノ規定ニ從フ(八七八)。次ニ親權ニ服スル者ハ父又ハ母ノ家ニ在ル未成年ノ子及獨  
立ノ生計ヲ立テザル成年ノ子ナリトス(八七七I)。但シ成年者ニ對スル親權ハ事實上ニ於テ有名無  
實ナルニ近シ。

親權者及  
親權ニ服  
スル者

第二節 親權ノ内容

親權ノ内容ヲナス權利義務次ノ如シ。即チ



- (イ) 未成年ノ子ノ監護及教育ヲ爲ス權利義務(八七九)
- (ロ) 必要ナル範圍内ニ於テ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之レヲ懲戒場ニ入ルル權利(八八二、矯正院法一、非訟九二)
- (ハ) 未成年ノ子ノ居所指定權(八八〇)
- (ニ) 未成年ノ子ノ兵役出願ヲ許可スル權利(八八一)
- (ホ) 未成年ノ子ガ職業ヲ營ムヲ許可シ及一旦與ヘタル許可ヲ取消ス權利(八八三、六)
- (ヘ) 未成年ノ子ノ財産ヲ管理收益スル權利(八八四、八八五、八八九乃至八九四)
- (ト) 財産ニ關スル法律行爲ニ付キ未成年ノ子ヲ代表スル權利(八八四乃至八八八)
- (チ) 未成年ノ子ニ代リテ戸主權及親權ヲ行フ權利(八九五)之レナリトス。

### 第三節 親權ノ喪失及拋棄

親權喪失ノ原因トシテ述ブベキ主要ナルモノハ(1)親權者又ハ子ガ死亡シ又ハ家ヲ去リタルトキ(八七七)、(2)未成年ノ子ガ成年ニ達シ且ツ獨立ノ生計ヲ營ムニ至リタルトキ、(3)親權者ガ親權ヲ喪失セルトキ即チ親權者ガ親權ヲ濫用シ或ハ著シク不行跡ナルトキ(八九六)、(4)未成年ノ子ガ禁治產者トナルルコト(九〇〇、九〇二)、(5)親權者ガ子ノ財産ヲ不當ニ管理シ其財産ヲ危クシタルトキ(八九

七)、(6)親權者タル母ガ財産ノ管理ヲ辭シタルトキ(八九九、九〇一)之レナリ。右ノ内ニ於テ(1)ヨリ(4)迄ノ原因存スルトキハ親權ハ全部的ニ消滅シ、(5)及(6)ノ原因アルトキハ單ニ親權ノ一部タル財産管理權ノミ消滅スベキモノトス。又親權喪失ノ宣告又ハ管理權ノミノ喪失宣告ハ、其原因止ミタルトキニ於テハ本人又ハ其親族ノ請求ニヨリ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得ルナリ(八九八)。

## 第七章 後 見

### 第一節 後見ノ開始

#### 第一 後見ノ意義

後見トハ親權ノ保護ヲ受ケザル未成年者及禁治產者ノ身體、財産ノ監護ノ爲メニ開始セララルル私法上ノ職務ヲ云フ(九〇〇、七九二)。上述ノ如ク後見ハ無能力者中ニ於テ未成年者及禁治產者ヲ保護スル制度ナリ。即チ無能力者中ニ於テ妻ハ其無能力トセララル理由ニ基キ夫權ニ服従スルヲ以テ足り、準禁治產者ニ對シテハ保佐人ヲ附スルガ故ニ、兩者共ニ後見ノ問題ヲ生ズルコトナシ。然ルニ未成年者中ニ於テ親權ノ保護ヲ受ケザル者ニ對シテハ、親權ノ延長トモ云ヒ得ベキ後見ノ制度ヲ以テ之レヲ保護スヘキ必要アルベク、又禁治產者ニ對シテハ民法總則ノ規定ニモアル如ク後見人ヲ置キテ此者ヲ保護セザル可ラザルモノトス。

後見ノ意義



後見ノ開始

## 第二 後見ノ開始

後見ニハ未成年者ノ後見ト禁治産者ノ後見トノ別アルコト既述ノ如ク、之レニ應ジテ其後見開始ノ原因ハ次ノ場合ナリトス。(イ)未成年者ニ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權者ガ管理權ヲ有セザルトキ(九〇〇一號)及(ロ)禁治産ノ宣告アリタルトキ(同二號)之レナリ。

### 第二節 後見ノ機關

後見ノ機關ニハ執行機關トシテ後見人、監督機關トシテ後見監督人及親族會ノ三種アレドモ、本章ニ於テハ親族會ノ規定ナク、後見人及後見監督人ニ關シテノミ規定シタルヲ以テ、此處ニ於テモコノ兩者ニ付テ説明シ、親族會ニ關シテハ別章ニ於テ述ブルコトトセン。

#### 第一款 後見人

##### 第一 後見人及被後見人ノ種類

後見人トハ後見ヲ行フ者ノコトヲ云ヒ、常ニ一人タルコトヲ要ス(九〇六)。後見人ニハ(イ)未成年者ノ後見人トシテ指定後見人(九〇二)、法定後見人(九〇三、七九一)及選定後見人(九〇四)ノ別アル可ク、又(ロ)禁治産者ノ後見人トシテハ法定後見人(九〇二、九〇三)及選定後見人(九〇四)ノ種別アリ。

##### 第二 後見人就任ノ順位

後見人就任ノ順位  
被後見人ガ未成年者ナル場合

(一) 被後見人ガ未成年者ナル場合 此場合ニ於テハ第一位ニ指定後見人即チ親權者ノ指定シタル後見人、第二位ニ戸主タル法定後見人、第三位ニ親族會ノ選定ニヨル選定後見人ガ後見ノ職務ニ就任スルモノトス。

被後見人ガ禁治産者ナル場合

(二) 被後見人ガ禁治産者ナル場合 此場合ニ於テハ第一位ニ法定後見人、第二位ニ選定後見人ガ後見ノ職務ニ就任スルモノトス。尙ホ第一位ノ法定後見人ニ付テハ(イ)配偶者ナキ者ガ禁治産者トナリタルトキ(後見人ハ親權者、但シ獨立ノ生計ヲ立ツル者ヲ除ク)、(ロ)夫ガ禁治産者トナリタルトキ(後見人ハ妻、夫未成年ナルトキハ親權者)、(ハ)妻ガ禁治産者トナリタルトキ(後見人ハ夫)及(ニ)以上方法ニヨリ後見人タル者ナキトキ(後見人ハ戸主)ノ各場合ヲ區別セザル可ラズ。

##### 第三 後見人ノ免除、缺格及免黜

(一) 後見人ノ免除 後見人就任ハ法律上ノ強制負擔タルノ性質ヲ有スルヲ以テ(イ)婦女ナルトキ及(ロ)正當ナル事由アルトキ(九〇七)ヲ除クノ外、之レヲ辭任スルコトヲ得ザルモノトス。而テ右ノ辭任ヲ稱シテ後見人ノ免除ト云フ。辭任ハ後見人就任ノ當初ニ於テナスモ、中途ニ於テ

後見人ノ免除、缺格及免黜  
後見人ノ免除







### 第一款 被後見人ノ身上ニ關スル事務

被後見人ノ身上ニ關スル事務ハ之レヲ左ノ如ク區別スルヲ要ス。即チ(a)被後見人ガ未成年者ナルトキハ大體ニ於テ親權ト其内容ヲ同ジウスルモ(九二二)、親權ト後見トノ差異ハ(1)後見人ハ後見監督人ノ監督ニ服スルコト(九一五、九一七、九一九、九三八)、(2)親族會ノ監督ニ服スル程度ノ強キコト(八八六、八八八、八七八)、(3)第九二一條但書ノ場合、(4)財産ノ調査及目錄調製ノ義務アルコト(九一七)、(5)法定後見人ヲ除キ財産ノ狀況ヲ毎年親族會ニ報告スベキコト(九二八)、(6)報酬ヲ受クルコトヲ得ルモ財産ニ對スル收益權ナキコト(九二五、八九〇)、(7)善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ事務ヲ處理スベキコト(八八九)、(8)歳費ノ豫定及一定金額ノ寄託(九二四、九二七)、(9)管理計算ノ義務(八九〇、九三七、九三八)等ヲ其主要ナルモノトス。(b)禁治産者ノ身上ニ關スル事務トシテハ(イ)禁治産者ノ資力ニ應ジテ其療養看護スベク(九二二)、(ロ)禁治産者ヲ入院セシムルヤ或ハ私宅ニ監置スルヤハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之レヲ決ス(九二二)。

### 第二款 被後見人ノ財産ニ關スル事務

後見人ガ有スル管理權ハ上述ノ如ク大體ニ於テ親權者ノソレト同ジク、未成年者又ハ禁治産者

財産ノ調査及目錄調製ノ管  
理

ノ財産ヲ管理シ且ツ其財産ニ關スル法律行為ニ付キ法定代理人タル資格ヲ有スルモノトス(九二二)。  
I。以下ニ於テ其主要ナル事務ヲ列舉スルコトトセン。

- (一) 財産ノ調査及目錄ノ調製 九一七乃至九二〇
- (二) 財産ノ管理(九二三、尙ホ九二一、八八五、九三六、八九二、九二六、九三二參照) 財産ノ管理ノ内容中ノ重ナルモノハ(a)歳費ノ豫定(九二四)、(b)金錢ノ寄託(九二七)、(c)財産狀況ノ報告(九二八)、(d)行為ノ制限、(e)擔保ノ提供(九三三)之レナリ。而テ後見人ハ右二個ノ事務ニ付キ先ヅ第一ノ事務ヲ終了シタル後ニ第二ノ財産管理ノ事務ニ移ルコトヲ原則トシ、急迫ノ必要アル行為ニ限り第二ノ事務ヲ先ヅ爲スコトヲ得ルモノトス(九一八)。

### 第三款 被後見人ノ行為ノ代理

後見人ハ財産ニ關スル法律行為ニ付キ被後見人ヲ代理シ又ハ被後見人ノ行為ニ對シテ同意ヲ與フルノ權限ヲ有ス(九二三、九二九、九三六、八八七)。次ニ後見人ハ被後見人ガ戶主ナルトキハ戶主權ヲ代理行使シ(九三四I)又被後見人ガ未成年者ナルトキハ之レニ代リテ親權ヲ行使ス(九三四II)。

### 第四節 後見ノ終了



後見終了ノ原因

### 第一 後見終了ノ原因

後見ノ絶對的終了ノ原因トシテハ(1)未成年者ガ成年ニ達シタルトキ(2)被後見人ガ死亡シタルトキ(3)禁治産ノ宣告ガ取消サレタルトキ(4)未成年者タル被後見人ガ親權ニ服スルニ至リ又ハ親權者ガ管理權ヲ回復シタルトキ(5)未成年ノ女子タル被後見人ガ男子ト婚姻シタルトキ(七九二)等ニシテ其相對的消滅原因トシテハ(1)後見人ノ死亡、辭任、免黜又ハ後見人タルノ資格ノ消滅(2)戸主タル後見人ガ戸主タル身分ヲ喪失シタルトキ(3)被後見人ガ其家ヲ去リタルトキ(4)禁治産者ノ後見人タル親權者ガ其家ヲ去リタルトキ等ヲ舉グルコトヲ得。尙ホ後見ノ當事者ハ後見ノ終了シタルコトヲ相手方ニ通知シ又ハ他方ガ之レヲ知りタルトキニ非ザレバ之レヲ以テ其他方ニ對抗スルコトヲ得ズ(九四一、六五五)。

### 第二 後見終了ヨリ生ズル後見人ノ義務

後見ノ終了ニ因リテ後見人ノ任務ハ終了スルモノナレドモ、之レニ因リテ後見ニ關スル一切ノ任務ガ終了スルモノニハ非ズ。即チ後見人ハ後見終了後ト雖モ管理ノ計算ニ必要ナル處分ヲ爲スベキモノトス。即チ後見人又ハ其相續人ハ後見終了後二ヶ月内ニ管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要シ(九三七)此計算ハ後見監督人立會ノ上ニ於テ爲サル可ク、後見人更迭ノ場合ニ於テハ親族會ノ認可ヲ要ス(九三八)。

而テ此計算終了ト共ニ後見關係ハ全然終了スベキモノトス(九三九、九四〇)。但シ

後見終了ヨリ生ズル後見人ノ義務

後見終了ノ場合ニ於テ急迫ナル事務アルトキハ、後見人、其相續人又ハ法定代理人ハ被後見人、其相續人又ハ法定代理人ガ自ラ其事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマデ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス(九四一、六五四)。

尙ホ第九三九條一項、第九四九條、第九四二條ノ規定ニ注意スベシ。

## 第八章 保 佐

保佐人ハ準禁治産者ニ附セラルルモノニシテ此者ヲ保護スルノ職分ヲ有スルヲ以テ、民法ハ其選任ニ付テハ禁治産者ノ後見人ニ關スル規定(九〇二乃至九〇八)ヲ準用シ(九〇九)タル外、二、三ノ規定ヲ後見ノ章下ニ於テ設ケタリ(九〇九、九四三)。即チ保佐人ニハ法定保佐人(九〇九、九〇二、九〇三)ト選定保佐人(九〇九、九〇四)トアリ、且ツ常ニ一人タルコトヲ要ス(九〇九、九〇六)。其選任免除、缺格及免黜ニ關シテハ後見人ニ關スル規定ノ準用アリ(九〇九)。而テ保佐人ハ同意權、取消權及ビ追認權ヲ有シ(但シ通説ハ同意權ノミヲ有スルモノトス)且ツ保佐人ト準禁治産者トノ間ニ於ケル利害相反スル行爲ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ得(九〇九)。而テ保佐人ノ監督ハ親族會之レヲ爲ス(九〇九)。保佐關係終了ノ原因ハ(1)準禁治産者ノ死亡、(2)準禁治産宣告ノ取消、(3)準禁治産者ガ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ(絶對的終了)、(4)保佐



人ノ死亡、辭任、免黜、(5)資格ノ喪失、(6)準禁治產者ノ去家、(7)親權者タル保佐人ガ親權ヲ失ヒタルトキ(相對的終了)之レナリ。

### 第九章 親族會

#### 第一 親族會ノ性質

親族會トハ特定ノ人又ハ家ノ爲メニ重要ナル事項ヲ議決スルコトヲ目的トスル合議機關ナリ。親族會ハ親族全體ノ會合ニモアラズ又必シモ親族ノミノ會合ニモアラズ。又親族會ハ原則トシテ會議ヲ要スル事件ノ發生スル毎ニ裁判所ニヨリテ組織招集セラレ、其事項ノ議決ヲ終ルト共ニ消滅スベキモノナレドモ、無能力者ノ爲メノ親族會ハ例外トシテ無能力ノ止ム迄繼續スルモノトス(九四九)。

親族會ノ構成

#### 第二 親族會ノ構成

親族會ハ法定ノ人ノ請求ニヨリ裁判所之レヲ招集シ(九四四)且ツ其員數ハ三人以上タルコトヲ要ス。而テ會員タルノ資格ハ(イ)親族(ロ)本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ、後見人選定權者ノ指定又ハ裁判所ノ選定ニヨリテ之レヲ決ス(九四五)。尙ホ後見人缺格ノ規定ハ親族會員ニモ其準用アリ(九四六)又後見人後見監督人又ハ保佐人ハ親族會員ヲ兼任スルコトヲ得ズ(九四六一)。親族會員ノ免除及免黜ニ關シテハ第九四六條一項ノ規定ニ依ルノ外、又第九四六條三項ニヨリ第

親族會ノ決議及其救濟方法

九〇八條ノ準用アリ。親族會員ニ缺員ヲ生ジタルトキハ之レヲ補充スベシ(九五〇)。尙ホ會員ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ事務ヲ處理セザル可ラズ(九五三、六四四)。

上述ノ如ク親族會ハ其招集ヲ裁判所ニヨリテナサルモ、其後ノ會合ニハ法定ノ者ノ招集アルヲ以テ足ル(九四九)。尙ホ親族會ニハ會員ノ外、法定ノ者モ亦出席シテ其意見ヲ述ブルコトヲ得ルモノトス(九四八)。

#### 第三 親族會ノ決議及其救濟方法

親族會ノ議事ハ會員ノ過半數ニヨリテ之レヲ決スルモノナレドモ、自己ノ利害ニ關スル決議ニ付テハ其會員ハ表決權ヲ有スルコトナシ(九四七)。親族會ガ決議ヲ爲スコト能ハザル場合ニ於テハ會員ハ其決議ニ代ルベキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ求ムルコトヲ得(九五二)。此場合ニ於ケル不服ノ訴ハ法律ニヨリテ認めラレズ單ニ抗告ヲ爲シ得ルノミナルモ(非訟一〇二)通常ノ場合ニ於テハ親族會ノ決議ニ對シテハ不服ノ訴ヲ爲シ得ルモノトス。不服ノ訴ヲ爲シ得ル者ハ一ヶ月内ニ其訴ヲ提起スルコトヲ要ス(九五二)。

### 第十章 扶養義務

#### 第一 扶養義務ノ意義及要件

扶養義務ノ意義及要件



(一) 意義 扶養義務トハ一定ノ人ガ自ラ生活又ハ學修ヲ爲スコト能ハザル場合ニ他ノ人ガ之レヲ引取り又ハ引取ラズシテ其生活又ハ教育ノ爲メノ經濟的給付ヲ爲ス義務ヲ云フ。扶養義務ハ契約ニヨリテモ生ジ得ルモ、我が民法ハ近親相互間及戸主ニ法律上此義務ヲ負擔セシメタリ。此制度ハ元來家族制度ノ當然ノ結果トシテ存在シ來リシモ、個人制度ノ時代ニ於テモ其必要少ナカラズ。但シ我が民法ノ規定スルトコロハ相當ノ程度ニ於テ制限的ナルモノトス。扶養ヲ受クル權利ハ親族法上ノ請求權ニシテ純粹ナル債權ニハ非ザルヲ以テ、民法ハ此權利ヲ處分スルコトヲ許サズ(九六三)。

(二) 要件 扶養義務ハ原則トシテ(1)扶養權利者ガ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハザル場合(2)自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハザル場合ニ發生ス(九五九I)。但シ兄弟姉妹間ノ扶養義務ハ扶養ノ必要ガ扶養權利者ノ過失ニ因ラズシテ生ジタル場合ニ於テノミ發生ス。尤モ扶養義務者ガ扶養權利者ニ對シテ戸主家族ノ關係ニ在リシトキハ此限りニ在ラズ(九五九II)。

第二 扶養權利者及扶養義務者

扶養權利者及扶養義務者次ノ如シ。即チ(1)直系血族及兄弟姉妹ハ互ニ扶養ノ義務ヲ負ヒ、(2)夫婦ハ互ニ扶養ノ義務ヲ負ヒ、(3)夫婦ノ一方ト他方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トモ互ニ扶養ノ

義務ヲ負ヒ、(4)戸主ハ家族ニ對シテ扶養ノ義務ヲ負フ(九五四、七九〇、七四九)。尙ホ扶養義務者數人アルトキハ其順位次ノ如シ。即チ(1)配偶者、(2)直系卑屬、(3)直系尊屬、(4)戸主、(5)夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者、(5)兄弟姉妹ノ順位ニシテ(九五五I、九五四II)、又直系卑屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テハ其最モ親等ノ近キ者ヲ先ニシ(九五五II)家ニ在ル者ヲ先ニシ、他家ニ在ル者ヲ後ニシ(九五六但書)同順位ノ者數人アルトキハ各其資力ニ應ジテ其義務ヲ負擔スルモノトス(九五六)。若シ義務者ノ資力ガ權利者全員ヲ扶養スルニ足ラザルトキハ扶養義務者ハ(1)直系尊屬、(2)直系卑屬、(3)配偶者、(4)夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ家ヲ同ジクスル者、(5)兄弟姉妹、(6)以上ノ何レニ屬セザル家族ノ順序ニ從ツテ扶養スルコトヲ要ス(九五七I)。又各階ニ於テハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ(九五七II)家ニ在ル者ヲ先ニス(九五八II)。斯ノ如キ順位ニヨリテ生ジタル同順位者ハ各其需要ニ應ジタル扶養ヲ受クルコトヲ得(九五八I)。

第三 扶養ノ程度及方法

(一) 扶養ノ程度 扶養ノ程度ハ權利者ノ需要ト義務者ノ社會上ノ地位ト資力トニ應ジテ之レヲ定ムベキモノトス(九六〇)。而テ當事者雙方ハ其程度ノ確定ヲ訴ニヨリテ解決スルコトヲ得(九六一)。

(二) 扶養ノ方法 扶養ノ方法ハ原則トシテ義務者之レヲ定メ或ハ權利者ヲ引取り又ハ引取ラ



ズシテ生活資料ヲ給付スルコトヲ得(九六一)。但シ正當ノ事由アルトキハ權利者ハ訴ニヨリ扶養方  
法ノ決定ヲ求ムルコトヲ得ベシ(九六一但書、九六二)。

## 第五編 相續法

### 第一章 總 說

相續ノ制  
度

#### 第一 相續ノ制度

民法第五編ハ相續法トシテ相續及遺言ニ關スル法規ヲ總括シタリ。元來相續人トハ、人格繼續  
ナル觀念ニ基クモノニシテ、我國ニ於ケル家督相續ノ如キモ亦之レト同一ノ思想ニ出タルモノト  
ス。然ルニ人ニ私有財産ガ認めラルルニ至リ人格相續即チ家督相續ノ外ニ財産相續ナルモノガ發  
生スルニ至リタリ。而テ現在ニ於テ歐洲諸國ニ在リテハ專ラ財産相續ノミガ問題トセラルルニ至  
リ、又我國ニ於テモ家督相續ノ外ニ財産相續ナル制度ヲ認めタリ。此處ニ議論ノ中心トナル可キ  
コトハ財産相續制ハ果シテ合理的基礎ノ上ニ立ツモノナリヤト云ヘルコト之レナリ。此議論ハ結  
局經濟上ノ學說ニヨリテ判定セラル可キモノニシテ、社會主義、共產主義ノ立場ヨリスレバ固ヨ  
リ此制度ハ採用セラル可キ限りニ在ラズ。勞農ロシヤニ於テハ一九二三年一月一日ノ新民法ニヨ  
リ一萬ゴールドル以下ノ相續ヲ原則トシテ許容シ、例外トシテ家具及國家トノ契約ニヨリ  
テ得タル財産ノ相續モ亦認めラレタリ(大正十五年十月三日評論拙稿「勞農ロシヤノ新民法ニ就テ」二三頁參照)。按



相續ノ種類及相續權ノ意義

ズルニ私有財産制度ハ制度自體トシテハ不可ナク又人ノ天性ニモ合スルヲ以テ財産相續ナル制度モ亦之レト關連シテソレ自體ニ於テハ敢テ排斥スベキモノニアラズ。然レドモ社會連帶ノ原理ヨリ考察シテ其程度或ハ方法ニ付テハ適當ナル制限又ハ限界ヲ設ケ置ク可キモノナリト信ズ。

第二 相續ノ種類及相續權ノ意義

我が民法ノ規定ニヨレバ相續ニハ家督相續及遺產相續トノ別アル外、法定相續及遺言相續トノ別アリ。次ニ相續權ノ性質ニ付テハ議論アルモ、兩者共ニ財産的親族權ニシテ純然タル財産權ニハアラズ。然ラバ相續權ハ一個ノ包括的權利ナリヤ又ハ數個ノ權利義務ノ集合ナリヤニ付テモ議論アレドモ、吾人ハ之レヲ以テ相續人タル地位ヲ内容トスル一種ノ身分權ナリト解ス。從ツテ相續人ニ被相續人ノ權利義務ガ移轉スルハ即チ相續人タル地位ニ對スル法律ノ規定又ハ遺言ノ效力ニシテ、相續權自體ガ請求權ナルニハアラズ。相續權ノ意義ハ上述ノ如ク相續人タル地位ヲ内容トスルモノナルヲ以テ、相續權ハ相續開始前ノ權利ナリト解スベキヲ正當トス。而テ民法ニ於テ相續開始後ニ種々ナル權利義務ヲ規定シタルハ、相續開始前ニ發生セル相續人タル地位ヲ内容トスル權利即チ相續權ニ基キ法律ノ規定シタルモノニシテ、民法ガ相續開始前及開始後ノ二種ノ相續權ヲ認メタルモノニハアラズ。斯ノ如ク相續權ハ相續開始前ノ權利ナルヲ以テ相續ノ開始ニヨリテ消滅スベキヲ原則トスルモ、必シモ常ニ然ラズ。即チ相續開始後ト雖モ必要アル場合ハ共存

在ヲ維持スベキコト恰モ混同後ノ權利ニ於ケルガ如シ(一七九、五二〇)。

第二章 家督相續

第一節 家督相續ノ開始

第一 家督相續開始ノ原因及其時期並ニ場所

家督相續トハ戶主ガ死亡其他ノ事由ニヨリテ戶主タル身分ヲ失ヒタル場合ニ家督相續人ガ其戶主ニ專屬セザル一切ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ云フ。從ツテ家督相續開始ノ原因ハ戶主タル身分喪失ノ事實ナリ。即チ(1)戶主ノ死亡、(2)戶主ノ隱居、(3)戶主ノ國籍喪失、(4)戶主ノ去家、(5)女戶主ノ入夫婚姻、(6)入夫ノ離婚等之レナリ。而テ其開始ノ時期ハ原則トシテ右ノ事實發生ノ時ナリ。故ニ例ヘバ隱居、去家等ノ場合ニ於テハ其届出アリタル時ガ相續開始ノ時期ナリトス。又相續開始ノ場所ハ被相續人ノ住所ニシテ、此場所ハ相續事件ニ關スル裁判管轄ヲ定ムルノ標準トナル(九六五、民訴二五、改正民訴一九、二〇、人訴三二、非訟六五、八五、九七、一〇三、一〇四)。

第二 家督相續回復ノ請求

家督相續ハ相續開始ノ原因タル事實ノ發生ニヨリ當然開始セラレ、家督相續人ハ當然ニ戶主トナル。然レドモ自稱相續人ガ存在シ之レガ爲メニ相續權ガ侵害セラレタル場合ニハ、正當ナル相

家督相續開始ノ原因及其時期並ニ場所

家督相續回復ノ請求



續人ハ侵害者ニ對シテ自己ノ相續權ヲ主張シ其侵害ノ排除ヲ請求スルコトヲ得。此權利ヲ稱シテ家督相續回復ノ請求權ト云フ(九六六)。而テ此權利ハ家督相續人又ハ其法定代理人ガ相續權侵害ノ事實ヲ知リタル時ヨリ五年間又ハ相續開始ノ時ヨリ二十年間其回復請求權ヲ行使セザルトキハ時効ニヨリテ消滅スルモノトス。

### 第三 相續財産ニ關スル費用

相續財産トハ相續人ガ被相續人ヨリ承繼セル積極財産ヲ云ヒ(場合ニヨリ相續財産ナル語ハヨリ廣義ニ用ヒラルルコトアリ)。此相續財産ニ關スル費用ハ原則トシテ相續財産自體ヨリ支辨スルモ、相續人ノ過失ニヨリテ生ジタル費用ハ相續人ノ固有財産ニテ之レヲ支辨スベキモノトス(九六七)。又遺留分權利者ガ被相續人ノ爲シタル贈與ヲ減殺スルニヨリテ得タル財産モ亦廣義ニ於ケル相續財産ナレドモ、此費用ハ右ノ財産ヲ以テ支辨スルコトヲ要セズ(九六七)。

## 第二節 家督相續人ノ資格

家督相續權モ亦私權ノ一種ナルヲ以テ出生ニヨリテ人ハ相續能力ヲ取得シ得ベク、從ツテ相續開始當時ニ於テ生存スル者ナル以上ハ相續人タリ得ルモノトス。故ニ未ダ出生セザル者、失踪ノ宣告ヲ受ケタル者及死亡者ノ如キハ相續人タルノ資格ナキヲ原則トス。然レドモ民法ハ實際上ノ

必要ニヨリ右ノ原則ニ對シテ二三ノ例外ヲ設ケタリ。即チ(1)胎兒ハ家督相續ニ付キテハ既ニ生レタルモノト看做サル(九六八、八二〇)。但シ後ニ死産ナリシトキハ此規定ノ適用ナシ(九六八)。(2)缺格者即チ第九六九條各號ニ該當スルガ如キ行爲ヲ爲シタル者ハ法律上當然ニ相續ヨリ除外セラレ。然レドモ其影響ハ缺格者ノ卑屬ニハ及ブコトナシ。(3)廢除者トハ被相續人ノ意思ニ基キ法定ノ原因アル場合ニ、裁判上法定ノ推定家督相續人ノ相續權ヲ剝奪セラレタル者ノコトヲ云フ。廢除ト缺格トノ差ハ(イ)前者ハ裁判上無資格トナリ後者ハ當然ニ無資格トナリ(ロ)前者ハ法定ノ推定家督相續人ノミヲ目的トシ後者ハ斯ノ如キ制限ヲナサズト云ヘルコトニ在リ。廢除ノ原因ハ第九七五條ニ列舉シタリ。尙ホ廢除ハ(イ)廢除ノ原因止ミタルトキ(ロ)被相續人ノ宥恕ニヨリ裁判上取消シ得ルモ、相續開始後ハ之レヲ爲スコトヲ得ズ(九七七)。最後ニ廢除ハ遺言ヲ以テモ之レヲ爲スコトヲ得ベク、此場合ニ於テハ遺言執行者ガ遺言ガ效力ヲ生ジタル後遲滯ナク之レヲ裁判所ニ出訴スベキモノトス(九七六)。

## 第三節 家督相續人ノ順位

### 第一 家督相續ノ主義

我が民法ニ於テハ家督相續人ハ一人ナリト規定シタリ。其理由ハ一家ニ二人以上ノ戸主アルコ



トヲ許サザルコトニ基クモノニシテ結局家ナル觀念ニ重キヲ置キタルモノニ外ナラズ。而テ家督相續ハ同時ニ戸主ノ財産ヲ承繼スルモノナルヲ以テ、戸主ノ財産ガ一人ノミノ手ニ歸スルノ結果ヲ生ズ。此結果ハ家族制度ヲ維持スル以上ハ當然ノコトニシテ敢テ怪シムニ足ラズ。然レドモ一人相續主義ハ被相續人ノ直系尊族、配偶者、直系卑屬ニ對シ苛酷ナル結果ヲ生ゼシムル虞レアルヲ以テ、將來民法ノ規定ノ改正セラルベキコトヲ主張スル學者少ナカラズ(民法相續編中改正要綱第一參照)。吾人モ固ヨリコノ主張ガ相當ノ理由アルコトヲ認ムルモノナルモ、實際上ニ於テハ必シモ容易ニ右ノ如ク判定シ難シ。蓋シ此制度ヲ改正スルガ爲メニハ法定ノ推定家督相續人ノ有スル種々ナル有形無形ノ負擔及責任ヲ可及的ニ除去スルト共ニ、相續財産ノ分配ノ程度及ビ方法ニ對スル明確ナル標準ヲ樹立スルコトヲ必要トナスベク而モコレハ極メテ困難ナルガ爲メナリ。

家督相續人ノ種類

第二 家督相續人ノ種類

家督相續人ハ之レヲ下ノ五種ニ分ツ。即チ(1)第一種ノ法定家督相續人、(2)第二種ノ法定家督相續人、(3)指定家督相續人、(4)第一種ノ選定家督相續人、(5)第二種ノ選定家督相續人之レナリ。

第三 家督相續人ノ順位

(一) 異種ノ家督相續人間ノ順位 家督相續人ノ種類ニヨル順位ハ次ノ如シ。(1)第一種ノ法定家督相續人、(2)指定家督相續人、(3)第一種ノ選定家督相續人、(4)第二種ノ法定家督相續人、(5)第

家督相續人ノ順位  
異種ノ家督相續人間ノ順位

二種ノ選定家督相續人之レナリ。

第一種法定家督相續人

(一) 第一種ノ法定家督相續人 此種ノ家督相續人ハ被相續人ノ家族タル直系卑屬ニシテ、若シ斯ノ如キ者數人アルトキハ其間ニ順位ノ定メヲ爲スコトヲ要ス。即チ其標準ハ(1)近親(2)男(3)嫡出(4)年長之レナリ。此等ノ標準ニヨリテ第一ニ相續スベキ順位ニ在ル者ヲ法定ノ推定家督相續人ト云フ(九七〇I)。尚ホ右ノ原則ニハ次ノ如キ例外アリ。即チ(a)嫡出又ハ庶出ノ女子ハ男子ニ優先ス(九七〇I四號)、(b)養子又ハ準正ニヨリテ嫡出子トナリタル者ハ其嫡出子トナリタル日ニ生レタルモノト看做サル(九七〇II)、(c)入夫ガ戸主トナル場合ニ於テハ第九七〇條ノ適用ナシ(九七一)、(d)法定ノ推定家督相續人ハ其姉妹ノ爲メニスル養子縁組ニヨリテ相續權ニ影響ヲ受ケズ(九七三)、(e)轉籍(七三七、七三八)ニヨリテ家族トナリタル直系卑屬ハ嫡出子及庶子ナキトキニ限り通常ノ順位ニ依ル(九七二)、(f)死亡者又ハ相續權ヲ失ヒタル者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ死亡者又ハ相續權喪失者ト同順位トナル(代襲相續又ハ嫡孫承祖)(九七四)、(g)法定ノ推定家督相續人ハ一定ノ原因ニヨリ廢除サレ(九七五乃至九七八)次順位者ガ法定ノ推定家督相續人トナル。

(二) 指定家督相續人 指定家督相續人トハ被相續人ノ指定ニ因リテ家督相續人トナル者ノコトヲ云ヒ、被相續人ガ指定ヲ爲シ得ル場合ハ(1)法定ノ推定家督相續人ナキトキニシテ且ツ(2)被相續人ノ死亡又ハ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ限ル(九七九I前段及II)。但シ右ノ指定ハ法定ノ推定

指定家督相續人



家督相續人アルニ至リタルトキハ其效力ヲ失フ。而テ此指定ニ在リテハ必シモ相續人ハ被相續人ノ家族又ハ親族ナルコトヲ要セズ、且ツ届出(九八〇)又ハ遺言(九八一)ニヨリテ其指定完成ス。

第一種選定家督相續人

(四) 第一種ノ選定家督相續人 法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ家ニ在ル父又ハ母、又ハ親族會ガ法定ノ順位ニ從ヒテ選定シタル家督相續人ヲ選定家督相續人ト云ヒ、其内ニ於テ第一種ニ屬スル者ノ法定順位ハ次ノ如シ。即チ第一位ハ配偶者但シ家女ナルトキ、第二位ハ兄弟、第三位ハ姉妹、第四位ハ家女ナラザル配偶者、第五位ハ兄弟姉妹ノ直系卑屬之レナリトス(九八二)。然レドモ家督相續人ヲ選定スベキ者ハ正當ナル事由アル場合ニ限り裁判所ノ許可ヲ得テ其順序ヲ變更シ又ハ選定ヲ爲サザルコトヲ得(九八三)。

第二種法定家督相續人

(五) 第二種ノ法定家督相續人 此種ノ相續人ニ屬スル者ハ家ニ在ル直系尊屬ニシテ右三種ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ家督相續人タルコトヲ得ル者ヲ云フ。其順位ハ(1)近親(2)男ヲ先ニス(九八四)。

第二種選定家督相續人

(六) 第二種ノ選定家督相續人 此種ノ家督相續人ハ以上四種ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ親族會ニ於テ選定セラル可キモノニシテ、其選定ノ順位ハ(1)親族、家族又ハ同家關係アル者(2)一般ノ他人之レナリ。但シ正當ノ事由アルトキハ親族會ハ裁判所ノ許可ヲ得テ第一位ニ他人ヲ選定シ得ルモノトス(九八五)。

### 第四節 家督相續ノ效力

#### 第一款 原則的效力

一般的效力

##### 第一 一般的效力

家督相續人ハ相續開始ノ時ヨリ被相續人ノ有セシ身分上竝ニ財産上ノ權利義務中被相續人ノ一身ニ專屬セザルモノヲ當然ニ承繼ス(九八六)。而テ家督相續人ノ特權トシテ民法ニ規定セルモノハ系譜、祭具及墳墓ノ所有權之レナリ(九八七)。從ツテ右ノ所有權ハ遺留分ノ算定ヲ爲スニ當リテモ之レヲ計算外ニ置ク可キモノトス(一一三二Ⅲ)。

##### 第二 特別の效力

(一) 隱居者又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合 此場合ニ於テ隱居者又ハ入夫婚姻ヲナス女

戸主ハ確定日附アル證書ニヨリテ其財産ヲ相續開始ト同時又ハ其以前ニ留保スルコトヲ得ベシ(九八八、民施五)。然レドモ右ノ留保ハ家督相續人ノ遺留分ノ規定ニ違反スルコトヲ得ザルモノトス(九八八但書、一一三〇、一一三二以下)。次ニ隱居者又ハ前女戸主ノ債權者ハ家督相續人ニ對シテ辨濟ヲ

請求シ得ルノミナラズ又前戸主ニ對シテモ辨濟ヲ請求シ得ルモノナリ(九八九Ⅰ、Ⅱ)。

(二) 入夫婚姻ノ取消又ハ入夫ノ離婚ニ因ル家督相續ノ場合 此場合ニ於テハ入夫ガ戸主タリ

特別の效力  
隱居者又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合

入夫婚姻ノ取消又



シ間ニ負擔シタル債務ニ付テハ、其債權者ニ於テ家督相續人ニ對スルノミナラズ又其入夫タリシ者ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得(九八九II、III)。

## 第二款 例外的效力(國籍喪失ニ因ル家督相續ノ效力)

國籍喪失ニ因ル家督相續ノ效力トシテ述ブベキ主要ナルモノハ次ノ如シ。(1)家督相續人ハ被相續人ノ戸主權及系譜、祭具及墳墓ノ所有權ノミヲ承繼スルヲ原則トス(九九〇I)。(2)家督相續人ハ遺留分及前戸主ガ特ニ指定シタル相續財產ヲ承繼スルコトヲ得(九九〇I但書)。(3)被相續人ガ國籍ノ喪失ニ因リテ其有シタル權利ヲ享有シ得ザルニ至リタル場合ニ於テ一年內ニ之レヲ讓渡サザルトキハ、其權利ハ家督相續人ニ歸屬ス(九九II)。(4)前戸主ノ債權者ハ家督相續人ニ對シテハ其受ケタル財產ノ限度ニ於テノミ辨濟ヲ請求スルコトヲ得(九九I)。

## 第三章 遺產相續

### 第一節 遺產相續ノ開始

遺產相續トハ家族ガ死亡シタル場合ニ死者ニ屬シタル財產ヲ相續人(遺產相續人)ニ於テ承繼スル場合ヲ云フ。故ニ遺產相續ハ家族ノ死亡ナル事實ノ發生ニヨリテ開始セラル(九九二)。其他遺產

相續ノ時期、場所、遺產相續回復ノ請求及相續財產ノ費用ニ付テハ家督相續ニ關シテ爲シタル説明ヲ參照スベシ(九九三)。

### 第二節 遺產相續人

#### 第一款 遺產相續人ノ資格

何人ト雖モ權利能力アル者ハ遺產相續人タルノ資格アルコト竝ニ胎兒ニ關スル特例アルコトハ家督相續ノ場合ト同様ナリ。次ニ遺產相續人ニ付テモ第九九七條ノ事由アルトキハ之レヲ缺格者トナシ、又第九九八條ノ事由アルトキハ被相續人ニヨリテ廢除ヲ受ク。尙ホ推定遺產相續人ノ廢除ハ被相續人ニ於テ何時ニテモ之レガ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得(九九九)。

#### 第二款 遺產相續人ノ順位

遺產相續人ハ一人タルコトヲ要セズ、同親等ノ順位者ノ共同相續主義ヲ採用ス。然レドモ遺產相續人ニ在リテハ常ニ法定ノモノナルコトヲ要シ、指定又ハ選定ノモノ之アルコトナシ。法定遺產相續人ノ順位次ノ如シ。即チ(1)直系卑屬ニ於テハ(イ)近親ヲ先ニシ(ロ)同親等者ハ同順位ニテ(ハ)代襲相續ノ原則ヲ採用ス(九九五)、(2)配偶者(九九六一號)、(3)直系尊屬(九九六一號)ニ於テハ



(イ)近親ヲ先ニシ(ロ)同親等者ハ同順位トス(九九六五)、(4)戸主(九九六一三號)之レナリ。

### 第三節 遺産相續ノ效力

#### 第一款 總 說

遺産相續ニ付テ我が民法ハ數人相續主義ヲ採用シタルガ、之レニ付キ民法ノ規定セルトコロ次ノ如シ。(1)遺産相續人ハ相續開始ノ時ヨリ被相續人ノ一身ニ專屬セルモノヲ除クノ外、被相續人ノ財産ニ屬セシ一切ノ權利義務ヲ承繼ス(二〇〇一)。(2)遺産相續人數人アルトキハ相續財産ハ其共有ニ屬ス(二〇〇二)。(3)各共同相續人ハ其相續分ニ應ジテ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス(二〇〇三)。

#### 第二款 相續分

##### 第一 相續分ノ意義及種類

相續分トハ各共同相續人が被相續人ニ屬セシ權利義務ヲ承繼スル割合ヲ云フモノニシテ、之レニ法律ノ規定ニ基ク法定相續分ト被相續人又ハ第三者ガ定ムル指定相續分トノ別アリ。

##### 第二 指定相續分

相續分ハ先ヅ被相續人ノ定ムルトコロニ依ルベキモ、之レニ付キテハ二三ノ條件アリ。即チ

相續分ノ  
意義及種  
類

指定相續  
分

(イ)遺言ヲ以テスルコト(ロ)被相續人自ラ指定スルカ又ハ第三者ニ之レヲ委託スルコト(ハ)遺留分ニ關スル規定ニ反セザルコト之レナリ(二〇〇六)。而テ遺留分ノ規定ニ反スル相續分ノ指定ノ效力ニ付テハ議論アルモ、指定自體ハ無効ニハアラズ。唯ダ減殺請求權ノ行使ヲウクルニ過ギザルモノト解スベシ。尙ホ被相續人が共同相續人中ノ一人若クハ數人ノ相續分ノミヲ定メ又ハ定メシメタルトキハ他ノ相續人ノ相續分ハ法定相續分ノ規定ニ從フ(二〇〇六五)。

##### 第三 法定相續分

指定相續分ナキトキハ法定相續分ニ從フ。其内容次ノ如シ。即チ(イ)同順位ノ共同相續人數人アルトキハ其各自ノ相續分ハ相均シキモノトス。但シ直系卑屬數人アルトキハ庶子及私生子ノ相續分ハ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一トス(二〇〇四)。(ロ)代襲相續人タル直系卑屬ハ被代襲者ノ相續分ニ同ジト雖モ、被代襲者ノ代襲相續人數人アルトキハ其數人ノ相續分ハ相均シキモノトス(二〇〇五)。尙ホ相續編中改正要綱第六ニヨレバ、家ニ在ラザル直系卑屬ノ相續分ハ家ニ在ルモノノ二分ノ一ト定メタリ。

##### 第四 贈與又ハ遺贈ヲ受ケタル相續人ノ相續分

共同相續人中被相續人ヨリ遺贈ヲ受ケ又ハ婚姻、養子縁組、分家、廢絶家再興ノ爲メ若クハ生計ノ資本トシテ贈與ヲ受ケタル者アルトキハ遺産分配ノ公平ヲ期スル爲メ民法ハ次ノ如キ規定ヲ設ケタリ。即チ(1)被相續人が相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與ノ價額ヲ加ヘタルモ

法定相續  
分

贈與又ハ  
遺贈ヲ受  
ケタル相  
續人ノ相  
續分



ノヲ相續財産ト看做シ、以上第二及第三ニ於テ述ベタルトコロニ依リテ算定シタル相續分ノ中ヨリ其遺贈又ハ贈與ノ價額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其者ノ相續分トス(一〇〇七I)。(2)遺贈又ハ贈與ノ價額ガ相續分ノ價額ニ等シク又ハ之レニ超ユルトキハ受遺者又ハ受贈者ハ其相續分ヲ受クルコトヲ得ズ(一〇〇七II)。(3)被相續人ガ右(1)及(2)ト異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思表示ハ遺留分ノ規定ニ反セザル限度内ニ於テ其效力ヲ有ス(一〇〇七III)。(4)以上ノ贈與ノ價額ハ受贈者ノ行爲ニ因リ其目的タル財産ガ滅失シ又ハ其價額ノ増減アリタルトキト雖モ相續開始ノ當時仍ホ原狀ニテ存スルモノト看做シテ之レヲ計算ス(一〇〇八)。

相續分ノ取戻

### 第五 相續分ノ取戻

共同相續人ノ一人ガ分割前ニ其相續分ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ他ノ共同相續人ハ其價額及費用ヲ償還シテ其相續分ヲ讓受クルコトヲ得ルモ(一〇〇九I)、右ノ權利ハ一ヶ月内ニ之レヲ行使スルコトヲ要ス(一〇〇九II)。而テ此權利ハ他ノ共同相續人ガ讓受人ノ承諾ヲ要セズシテ目的物ヲ讓受ケ得ルモノナルヲ以テ、學者ハ通常此權利ヲ相續分ノ取戻權ト云フ。然ラバ右ノ取戻權ハ何人ガ行使スベキカト云フニ、共同相續人全員ガ共同シテ之レヲ行使スベキモノト解ス。

### 第三款 遺産ノ分割

遺産相續ノ開始ニヨリ相續財産ハ一旦ハ共同相續人ノ共有ニ屬スルモ、元來共有狀態ヲ繼續セ

分割ノ請求

シムルハ多クノ場合ニ於テ不利益、不便宜ナルコト少ナカラザルヲ以テ、民法ハ遺産ノ分割ニ關スル規定ヲ設ケタリ。尙ホ遺産ノ分割ニ關シテハ物權法ノ共有ニ關スル規定ヲ性質ノ許ス限リ此場合ニ關スル規定ノ補充トシテ考フルヲ可トス。

(一) 分割ノ請求 共同相續人間ノ相續分ハ共有ノ持分ニ當ルモノナルヲ以テ、物權法ノ規定ニ從ヒ各共同相續人ハ遺産ノ分割ヲ請求シ得ベク且ツ其必要アルコト通常ノ共有ノ場合ヨリモ多カルベシ(二五六I)。又被相續人ガ遺言ヲ以テ相續開始ノ時ヨリ五年ヲ超エザル期間内分割ヲ禁ジタルトキハ被相續人ノ意思ヲ尊重シテ之レニ從フ可ク(一〇一一)更ニ共同相續人相互間ニ於ケル契約ニヨリ五年ヲ超エザル期間内ニ於ケル分割ノ禁止ヲ約定スルコトヲ妨ゲズ(二五六I但書、同II)。

分割ノ方法

(二) 分割ノ方法 分割ノ方法ハ若シ被相續人ガ遺言ヲ以テ分割ノ方法ヲ定メタルトキハ之レニ從ヒ、又之レヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託シタルトキハ其第三者ノ決定ニ從フ(一〇一〇)。然ルニ被相續人或ハ第三者ガ分割ノ方法ヲ決定セザルトキハ共同相續人間ノ協議ニヨリ、若シ協議調ハザルトキハ其決定ヲ裁判所ニ求ムベキモノトス(二五八)。此訴ノ性質ハ形成ノ訴ニシテ給付ノ訴ニ非ズ。而テ分割ノ現物分割ヲ以テ原則トスルモ、之レヲ爲スコト能ハザルトキ又ハ分割ニヨリテ著シク其價額ヲ損スル虞レアルトキハ例外トシテ換價分割ノ方法ニヨルコトヲ許ス(二五八II)。

遺産分割ノ效力

(三) 遺産分割ノ效力 (イ)遺産ノ分割ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ズ(一〇一二)。(ロ)各共同相續人ハ相續開始前ヨリ存スル事由ニ付キ他ノ共同相續人ニ對シ賣主ト同シク其相續分ニ



應ジテ擔保ノ責ニ任ズ(一〇一三、五六〇以下)。(ハ)各共同相續人ハ其相續分ニ應ジテ他ノ共同相續人が分割ニ因リテ受ケタル債權ニ付キ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保スルト共ニ辨濟期ニ在ラザル債權及停止條件附債權ニ付テハ各共同相續人ハ辨濟ヲ爲スベキ時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保スルモノトス(一〇一四)。(ニ)擔保責任アル共同相續人中償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハザル部分ハ求償者及他ノ資力アル者各相續分ニ應ジテ之レヲ分擔スベキモ、若シ求償者ニ過失アリシトキハ他ノ共同相續人ニ對シ分擔ヲ請求スルコトヲ許サズ(一〇一五)。(ホ)以上(ロ)ヨリ(ニ)迄ノ擔保責任ハ被相續人が遺言ヲ以テ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ之レヲ適用セザルモノトス(一〇一六)。尙ホ相續財產分割ノ效力ニ關シテハ、移轉主義ト宣言主義トノ區別アリ。我が民法ハ後者ニ從フ(一〇一二)。

## 第四章 相續ノ承認及拋棄

### 第一節 總 說

#### 第一 相續ノ承認及拋棄ノ意義

元來我國ノ慣習ニヨルトキハ相續人ハ必ず被相續人ヲ相續セザル可ラザルモノニシテ且ツ其相續ヲナスニ當リテモ被相續人ノ權利義務ヲ無限ニ承繼セザル可ラザルモノトナシタリ。之レ蓋シ家族制度ノ結果ナリトス。然ルニ社會事情ノ變化ハ民法ヲシテ家族制度ニ關スル折衷的見解ヲ採

相續ノ承認及拋棄ノ意義

ラシメ、其結果相續ニ付テモ從來ノ態度ヲ改メ、相續人ノ地位及利益ヲモ考慮スルニ至レリ。之レ即チ我が民法ニ相續ノ承認及拋棄ノ規定アル所以ナリトス。相續ノ承認トハ相續人が自己ノ爲メニ開始セル相續ヲ確認スル單獨行爲ニシテ、相續ノ拋棄トハ相續人が自己ノ爲メニ開始シタル相續ヲ否認スル單獨行爲ナリ。而テ相續ノ承認ニハ單純承認ト限定承認トノ二種アリ、前者ハ被相續人ノ權利義務ヲ全部承認スル場合ニシテ、後者ハ相續ニ因リテ得タル財產ヲ限度トシテ被相續人ノ債務及遺贈ヲ辨濟スベキ場合ヲ云フ(一〇二三、一〇二五)。但シ單純承認ノ場合ニ於テハ單法定定期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲サザルコトヲ以テ足ルモノト解スルヲ正當トスベク特ニ單純承認ヲナス可キ旨ノ表示ヲナスコトヲ要セズ。又相續ノ承認又ハ拋棄ハ相續權ニ從タル權利ナリトス。尙ホ相續ノ承認又ハ拋棄ニ付テハ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ズ。

#### 第二 相續ノ承認又ハ拋棄ノ制限

相續ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スニハ次ノ制限ヲ考慮スルコトヲ要ス。(1)第一種法定家督相續人(九七〇)ハ相續ヲ拋棄スルコトヲ得ズ(一〇二〇)。(2)入天婚姻ニ因ル家督相續人タル入夫ハ相續ノ拋棄ヲナスコトヲ得ズ(七三六)。(3)第七五二條ノ隱居ニ因ル家督相續人ハ相續ノ拋棄又ハ限定承認ヲナスコトヲ得ズ。(4)第七五三條ノ隱居ニ因ル家督相續人ハ相續ノ拋棄ヲナスコトヲ得ズ。

#### 第三 相續ノ承認及拋棄ノ期間

相續ノ承認又ハ拋棄ノ制限

相續ノ承認及拋棄ノ期間



相續ノ承認及拋棄ハ相續人タル地位ヲ速ニ確定スベキ必要上、其權利ノ行使ニ付キ一定ノ期間ヲ設ケタリ。即チ(1)原則トシテ相續開始ヲ知リタル時ヨリ三ヶ月内(二〇一七I)(2)相續人死亡ノ場合ニハ代襲相續人又ハ次順位相續人ガ其相續開始ヲ知リタル時ヨリ三ヶ月内(二〇一八)(3)相續人ガ無能力者ナルトキハ其法定代理人ガ相續開始ヲ知リタル時ヨリ三ヶ月内(二〇一九)ニ相續ノ承認又ハ拋棄ヲナスコトヲ要ス。尤モ以上ノ期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニヨリ裁判所ニ於テ之レヲ伸張スルコトヲ得(二〇一七I但書非訟一〇三、一〇六)。

相續財産ノ管理

#### 第四 相續財産ノ管理

相續ノ承認又ハ拋棄ヲナス迄ハ相續人ハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲナスコトヲ要ス(二〇二一I)。又裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニヨリ何時ニテモ相續財産ノ保存ニ必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ得ベク、管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二七條乃至第二九條ヲ準用ス(二〇二二II、III)。

相續ノ承認及拋棄ノ取消

#### 第五 相續ノ承認及拋棄ノ取消

一旦相續ノ承認又ハ拋棄ヲナシタル以上、民法總則編及親族編ノ規定ニ基キ取消シ得ル場合(四、九、一二、一四、九六、一二〇、八八六、八八七、九二九、九三六、八七八)ノ外ハ絶對ニ之レヲ取消スコトヲ得ズ。而テ此取消權ニ付テハ特別ナル消滅時効アリ(二〇二二II)。

## 第二節 相續ノ承認

### 第一款 單純承認

單純承認ハ上述ノ如ク被相續人ノ權利義務ヲ全部承認スル場合ヲ云ヒ(二〇二三)、單ニ法定期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲナサザルコトヲ以テ足ル。故ニ單純承認ハ意思ノ表示ニハアラス。民法ハ第一〇二四條ニ於テ單純承認ト看做スベキ場合ヲ列舉シタレドモ、本條ハ單純承認ソノモノノ場合ノ列舉ナリト解スルヲ正當トス。其場合ハ即チ(1)相續人ガ相續財産ノ全部又ハ一部ヲ處分シタルトキ(但シ保存行為又ハ第六〇二條所定ノ期間内ノ賃貸ヲ除ク)、(2)相續人ガ法定期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲナサザリシトキ、(3)限定承認又ハ拋棄行為後ニ不正行為ヲナシタルトキ之レナリ(二〇二四)。

### 第二款 限定承認

#### 第一 限定承認ノ意義及方式

限定承認ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ被相續人ノ債務及遺贈ヲ辨濟スベキ場合(二〇二五)ヲ云ヒ、其方式ハ法定期間内ニ財産目録ヲ調製シテ之レヲ區裁判所ニ提出シ、限定承認ヲ爲

限定承認ノ意義及方式



限定承認ノ效力

ス旨ヲ申述スルコトニ在リ(一〇二六、一〇二四ノ三號、非訟一〇四乃至一〇六)。

第二 限定承認ノ效力

限定承認ニヨリ(1)相續人ハ被相續人ノ權利義務ヲ承繼スルモ、被相續人ノ債務及遺贈ヲ辨濟スルニ付テハ承繼セル財産ヲ其限界トナス、(2)相續人ガ被相續人ニ對シテ有セシ權利義務ハ之レヲ消滅セザリシモノトス(一〇二七)。(3)相續人ハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ繼續スベキ義務ヲ負擔スル(一〇二八)ノ效力ヲ生ズ。

債務及遺贈ノ辨濟

第三 債務及遺贈ノ辨濟

限定承認者ハ先ヅ相續債權者及受遺者ニ對シテ辨濟ヲ爲サザル可ラズ。其手續次ノ如シ。

辨濟手續

(一) 辨濟手續 限定承認者ハ限定承認後五日以内ニ一切ノ相續債權者及受遺者ニ對シ、限定承認ヲ爲シタルコト及二ヶ月ヲ下ラザル一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スベキ旨ヲ公告シ且ツ其期間内ニ申出ヲ爲サザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スベシ(一〇二九I)。又知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スベシ(一〇二九II、七九III)。而テ限定承認者ハ右ノ期間滿了前ニ於テハ其辨濟ノ請求ヲ拒絶スルコトヲ得ベシ(一〇三〇)。右ノ期間經過後ニ於テ限定承認者ハ期間内ニ申出デタル者及知レタル債權者ニ對シ、其債權額ニ應ジテ相續財産ヨリ其辨濟ヲ爲ス。尤モ優先權アル債權者ニ對シテハ先ヅ其辨濟ヲ爲サザル可ラズ(一〇三一)。尙ホ條件附又ハ期限附債權モ

辨濟ノ效力

亦其辨濟ヲ受クルコトヲ得ルモ、裁判所ノ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從フ(一〇三二)。又受遺者ニ對スル辨濟ハ、上述ノ手續ニヨリテ債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ニ非ザレバ之レヲ爲スコトヲ得ズ(一〇三三)。次ニ此等ノ辨濟ヲ爲スニ付キ必要アルトキハ限定承認者ハ相續財産ヲ競賣ニ付シ又ハ競賣ニ代ヘテ裁判所ノ選任シタル鑑定ノ評價ニ從ヒ相續人自身ノ財産ヲ以テ其辨濟ヲ爲スコトヲ得(一〇三四、一〇三五)。

(二) 辨濟ノ效力 以上ノ手續ニヨリ辨濟ヲ得ザリシ債權ハ限定承認者ニ於テ其責任ナキヲ以テ所謂自然債務トナリ、從ツテ限定承認者ノ任意ノ辨濟ハ有效ナル辨濟トナル。又右ノ手續ニ違反シテ爲シタル辨濟ト雖モ有效ニシテ、唯ダ之レガ爲メ他ノ債權者又ハ受遺者ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於テハ、限定承認者ハ之レガ賠償ヲ爲スコトヲ要ス(一〇三六I)。尙ホ情ヲ知リテ不當ニ辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者ハ之レガ爲メ他ノ債權者又ハ受遺者ヨリノ求償ニ應ズルノ義務アリ(一〇三六II)。民法ハ右ノ損害賠償並ニ求償請求權ニ付キ不法行爲ノ場合ノ消滅時効ノ規定ヲ準用シタリ(一〇三六III、七二四)。最後ニ辨濟手續完了ニ際シテ尙ホ殘餘財産アルトキハ勿論其財産ハ限定承認者ニ歸屬シ、相續財産ノ管理義務ハ之レニヨリテ消滅スルモノトス。

第三節 相續ノ拋棄



相續ノ拋棄ハ相續人が自己ノ爲メニ開始セラレタル相續ヲ否認スル行爲ニシテ、法定期間(一〇一七)内ニ其旨ヲ區裁判所ニ申述スルコトヲ要ス(一〇三八、一〇二四條ノ二號、三號、非訟一〇四乃至一〇六)。拋棄ノ效力ハ相續開始ノ時ニ遡及ス(一〇三九I)。而テ數人ノ遺産相續人アル場合ニ於テ其一人ガ拋棄シタルトキハ、其者ノ相續分ハ他ノ相續人ノ相續分ニ應ジテ之レニ歸屬ス(一〇三九II)。尙ホ拋棄者ニモ亦財産管理ノ義務アリ(一〇四〇)。相續ノ拋棄ハ相續ノ開始前ニ於テ豫メ之レヲナスコトヲ得ズ。又相續拋棄ノ合意ハ相續人ヲ拘束スルコトナキモノトス。

### 第五章 財産ノ分離

#### 第一節 總 說

財産分離ノ意義

**第一 財産分離ノ意義**  
財産分離トハ裁判所ガ相續ノ開始後、相續債權者、受遺者又ハ相續人ノ債權者ノ請求ニヨリテ相續財産ト相續人ノ固有財産トヲ分離セシムルコトヲ云フ。之レ蓋シ單純承認ノ場合ニ於ケルガ如ク相續財産ト相續人ノ固有財産トノ混同ヲ生ズル場合ニ於テハ、相續債權者、受遺者又ハ相續人ノ債權者ニ不測ノ損害ヲ與フルコトアルヲ豫防センガ爲メニ外ナラズ。

財産分離ト限定承認トノ關係

**第二 財産分離ト限定承認トノ關係**  
財産分離ノ目的以上ノ如シトセバ、若シ相續人が限定承認ヲナシタルトキハ財産分離ノ必要ナ

キガ如シ。然レドモ此場合ニ於テモ法律ハ一定ノ場合ニ付キ限定承認ノ利益ヲ拋棄シタルモノト看做スコトアルガ故ニ(一〇二四ノ二號)、相續債權者、受遺者及相續人ノ債權者ハ斯ノ如キ不利益ヲ免カルルガ爲メ豫メ財産ノ分離ヲ爲シ置クノ利益アリトス。

#### 第二節 相續債權者及受遺者ノ請求

財産分離請求ノ訴及其期間

**第一 財産分離請求ノ訴及其期間**  
財産ノ分離ハ上述ノ如ク相續財産ト相續人ノ固有財産トヲ分離セシムルモノニシテ、其目的ハ相續債權者等ヲシテ相續財産ニ付キ優先辨濟ヲ受ケシムルコトニ在リ。而テ相續債權者又ハ受遺者ハ一定期間内ニ財産分離ノ請求ヲ裁判所ニ爲スコトヲ得ベク(一〇四一I)此請求ハ相續人ヲ被告トスル民事訴訟ナリ。又右ノ期間ハ(1)相續開始ノ時ヨリ三ヶ月内(2)期間ニ關係ナク相續財産ト相續人ノ固有財産トガ混合セザル間ナリトス(一〇四一I)。

#### 第二 財産分離請求ノ效果(相續財産ノ管理)

財産分離ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ相續財産ノ管理ニ必要ナル處分(例ハ管理人ノ選任)ヲ命ジ(一〇四三、非訟六七)又裁判所ガ管理人ヲ選任セザルトキハ、相續人ハ單純承認ヲナシタル後ト雖モ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ヲ管理スルコトヲ要スルモノトス

財産分離請求ノ效果



(一〇四四)。

### 第三 財産分離ヲ命ズル判決ノ效果

財産分離ヲ命ズル判決ヨリ生ズル主ナル效果次ノ如シ。即チ(1)相續人ノ固有財産ト相續財産トハ分離サル。(2)分離請求者ハ五日以内ニ他ノ相續債權者及受遺者ニ對シテ配當加入申出ノ公告ヲ爲ス。而テ其申出期間ヲ二ヶ月以上トス(一〇四二)。(3)分離請求者及配當加入者ヲシテ相續財産ニ付キ優先辨濟ヲ受クルコトヲ得セシム(一〇四二)。(4)財産ノ分離ハ之レヲ第三者ニ對抗シ得ルモ、不動産ニ付テハ登記ヲ要ス(一〇四五)。(5)分離請求者及配當加入者ハ物上代位權ヲ有ス(一〇四六、三〇四)。(6)財産分離請求者及配當加入者ハ相續財産ニ付キ充分ナル辨濟ヲ受ケザリシ場合ニ限り相續人ノ債權者ニ後レテ相續人ノ固有財産ヨリ其辨濟ヲ受クルコトヲ得(一〇四八)。(7)相續人ハ相續開始後三ヶ月内及配當加入申出期間内ニ於テハ辨濟ノ請求ヲ拒絶スルコトヲ得(一〇四七I)。(8)其期間經過後ニ於テ分離請求者及配當加入者ニ對シテ限定承認ノ場合ニ準ジテ辨濟ヲナス(一〇四七II及III)。

尙ホ相續人ハ一定ノ場合ニ於テ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シテ財産分離ノ請求ヲ阻止スルノ權利ヲ有ス。但シ相續人ノ債權者ガ之レニ因リテ損害ヲ受ク可キコトヲ證明シテ異議ヲ述べタルトキハ此限リニ在ラズ(一〇四九)。

### 第三節 相續人ノ債權者ノ請求

相續人ノ債權者ハ相續人が限定承認ヲナシ得ル間(一〇二六)又ハ相續財産ト固有財産トガ混合セザル間ハ財産分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得(一〇五〇I)。此場合ニ於ケル財産分離ニ對シテハ限定承認ニ關スル第一〇二七條及第一〇二九條乃至第一〇三六條ノ準用アル外、相續債權者ノ爲メノ財産分離ノ請求ニ關スル第一〇四三條乃至第一〇四五條及第一〇四八條並ニ第三〇四條ノ準用アリ(一〇五〇II)。

### 第六章 相續人ノ曠缺

#### 第一 相續人曠缺ノ意義

相續人ノ曠缺トハ相續人ノ有無分明ナラザル場合ヲ云フ。其家督相續ノ場合ナルト遺産相續ノ場合ナルトヲ問ハズ、相續開始ノ時ニ當リ相續人ノ在ルコト分明ナラズシテ永ク其財産ヲ抛擲シ置クトキハ社會經濟上不利ナル結果ヲ生ズルコト多シ。故ニ民法ハ此場合ヲ相續人曠缺ト稱シ、其相續人ノ分明ナルニ至ルカ又ハ其相續人ナキコト分明ナルニ至ル迄相續財産ヲ法人トナシ、之レニ管理人ヲ置クベキコトトナシタリ(一〇五一)。



第二 相續法人ノ性質

相續法人ノ性質ニ關シテハ議論少ナカラズ。或ハ之レヲ以テ擬制ニ因ルモノトナシ、或ハ實在論ノ見地ヨリシテ斯ノ如キモノハ法人ニ非ズト主張ス。此法人ハ家族制度ノ一現象ニシテ、民法ガ家ヲ以テ獨立ノ權利主體ト爲サザリシ見地ト實際上ノ必要トノ調和手段トシテ現ハレタルモノナルヲ以テ、相續法人ハ擬制法人ナリト解スルヲ妥當ナリトス。此法人ノ人格取得及消滅ノ時期ニ付テハ既ニ説明シタルトコロナリ。

第三 相續財産管理人ノ選任

相續法人ガ成立セルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニヨリ相續財産ノ管理人ヲ選任シ、遲滯ナク其旨ヲ公告スルコトヲ要ス(一〇五二)。此場合ニ於ケル管理人ハ法人ノ法定代理人タルノ性質ヲ有シ(一〇五三、一〇五六I)、從ツテ相續人アルコト分明ナルニ至リタル結果相續法人自體ガ存在セザリシモノト看做サレタル場合ニハ(一〇五五)理論上、管理人ハ代理權ナカリシモノトナルベキモ、民法ニハ特ニ(1)既ニ其權限内ニ於テ爲シタル行爲ハ其效力ヲ保有セシメ(一〇五五但書)、(2)相續人ガ相續ノ承認ヲ爲ス迄ハ其代理權ハ消滅セザル旨ヲ規定シタリ(一〇五六I)。

第四 管理人ノ職務及相續人搜索手續

相續人搜索手續トシテハ(1)裁判所ノ管理人選任ノ公告、(2)管理人ノ公告(一〇五七)及(3)上述ノ期

第七章 遺留分

第一 遺留分及減殺權ノ性質

遺留分トハ相續財産ノ一部ニシテ被相續人ノ自由ニ之レヲ處分スルコトヲ許サズシテ必ず相續人ニ遺留スベキ財産ヲ云フ。然レドモ遺留分ガ如何ナル性質ヲ有スルモノナルヤニ付テハ疑問アリ。吾人ハ相續權ノ效果トシテ享受シ得ベキ財産ノ内容ガ法定ノ内容即チ遺留分ノ規定ニ違反スル場合ニ於テ、其補償ヲ求ムルガ爲メノ權利ヲ減殺請求權ナリト解セント欲ス。即チ遺留分ハ相

間内ニ尙ホ相續人ノ知レザルトキハ、其期間滿了後裁判所ハ管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續人アラバ一年以上ノ一定期間内ニ其權利ヲ主張スベキ旨ヲ公告セザル可ラズ(一〇五八)。而テ右ノ期間内ニ相續人タル者ナキトキハ相續財産ハ國庫ニ歸屬スルト共ニ相續法人ハ消滅ス(一〇五九I)。但シ國庫ハ單ニ其殘餘財産ヲ取得スルニ過ギズシテ、相續ヲナスモノニハ非ズ。又期間内ニ相續人アルコト分明ナルニ至リタルトキハ、相續法人ハ存在セザリシモノト看做サル(一〇五五)。又管理人ハ不在者ノ財産管理ト類似スル管理事務ヲ行フ(一〇五三、二七乃至二九)ノ外、相續債權者又ハ受遺者ニ對スル財産狀況ノ報告及相續人ニ對スル管理ノ計算(一〇五四、一〇五六II)及相續債權者、受遺者ニ對スル辨濟手續ヲ爲スコトヲ要ス(一〇五七)。



續人ノ有スル權利ニハ非ザルモ、民法ノ基本主義ニ立脚シテ一定ノ相續人ニ附與スベク法律ニヨリ定メタル被相續人ノ財産ノ範圍タルニ過ギズ、而テ此範圍ヲ保護スルガ爲メニ減殺請求權アルモノトス。

遺留分ノ種類

第二 遺留分ノ種類

遺留分ノ内容ハ相續人ノ種類ニヨリテ同ジカラズ。即チ(イ)法定家督相續人タル直系卑屬ハ被相續人ノ財産ノ二分ノ一(一一三〇I)ニシテ代襲相續者亦同ジ(一一四六)。(ロ)其他ノ家督相續人ハ三分ノ一(一一三〇II)(ハ)遺産相續人タル直系卑屬ハ同順位者全體トシテ二分ノ一(一一三一I)而テ其共同相續人間ノ遺留分ハ相續分ト同一ノ割合ニヨル(一一四六)。(ニ)遺産相續人タル配偶者又ハ直系尊屬ハ三分ノ一(一一三一II)但シ直系尊屬數人アルトキハ(ハ)ノ場合ニ準ズ。尙ホ相續編中改正要綱第十七ヲ參照スベシ。

遺留分ノ算定

第三 遺留分ノ算定

遺留分算定ノ基本トナルベキ財産ハ(イ)被相續人ガ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産(一一三二I)。(ロ)相續開始前一年間ニ爲シタル贈與(一一三三)、(ハ)其以前ニ當事者雙方ガ惡意ヲ以テ爲シタル贈與、(ニ)惡意ヲ以テナシタル不相當ノ有償行爲(一一四二)之レナリ。次ニ遺留分算定ノ爲メニハ條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從フ(一一三二II)。又遺留分ノ計算ヨリ除外セラルル財産ハ(1)債務(一一三二I)(2)家督相續ノ特權ニ屬スル財産

(一一三二)、(3)相續財産ニ關スル費用(九六七)之ナリ。

第四 贈與及遺贈ノ減殺

贈與及遺贈ノ減殺ノ意義

(一) 減殺ノ意義 被相續人ガ自由ニ處分スルコトヲ得ベキ範圍ヲ超過シ贈與又ハ遺贈ヲ爲シタルトキハ遺留分權利者及其承繼人ハ遺留分保全ノ爲メ其超過部分ニ付キ贈與又ハ遺贈ノ效力ヲ減殺スルコトヲ得。之レヲ贈與又ハ遺贈ノ減殺ト云フ。但シ遺留分ヲ權利ニ非ズトセバ遺留分權利者ナル語ハ遺留分ニ因ル減殺權者ナル語ヲ以テ置キ換フルコトヲ要ス。要スルニ減殺ハ遺留分ヲ保全スルニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ズ。又減殺ノ請求ヲ爲シ得ル者ハ遺留分權利者及其承繼人ニシテ(一一三四)其請求ヲ受クル者ハ受贈者及受遺者トス(一一四四)。

減殺ノ順序

(二) 減殺ノ順序 減殺ノ順序トシテ民法ノ規定スルトコロハ(1)遺贈ト贈與ト併存スルトキハ

先ヅ遺贈ヲ減殺ス(一一三六)。(2)數個ノ遺贈アルトキハ其目的ノ價額ノ割合ニ應ジテ之レヲ減殺ス但シ遺言者ニ別段ノ意思アルトキハ之レニ從フ(一一三七)。(3)數個ノ贈與併存スルトキハ其減殺ハ後ノ贈與ヨリ始メ順次ニ前ノ贈與ニ及ブ(一一三八)コト之レナリ。

減殺ノ效力

(三) 減殺ノ效力 減殺請求權ノ性質ハ上述シタルトコロヨリ遺留分ヲ超ユル贈與又ハ遺贈ノ部分ノ返還ヲ目的トスル債權ニシテ、其效力トシテ民法ノ規定スルトコロ次ノ如シ。即チ(1)條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ヲ以テ贈與又ハ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其贈與又



ハ遺贈ノ一部ヲ減殺スベキトキハ、遺留分権利者ハ第一一三二條二項ノ規定ニ依リテ定メタル價格ニ從ヒ直チニ其殘部ノ價額ヲ受贈者又ハ受遺者ニ給付スベシ(一一三五)。(2)受贈者ハ其返還スベキ財産ノ外尙ホ減殺ノ請求アリタル日以後ノ果實ヲ返還スルコトヲ要ス(一一三九)。(3)負擔附贈與ハ其目的ノ價額中ヨリ負擔ノ價額ヲ控除シタルモノニ付キ其減殺ヲ請求スルコトヲ得(一一四一)。(4)不相當ノ對價ヲ以テ爲サレタル有償行爲ハ當事者雙方惡意ナル場合ニ限り之レヲ贈與ト看做シ、遺留分権利者ガ其減殺ヲ請求スルトキハ其對價ヲ償還スベシ(一一四二)。(5)受贈物ヲ轉讓シ又ハ其上ニ權利ヲ設定シタル場合ニハ遺留分権利者ニ其贈與ノ價額ヲ辨償スベク、若シ讓受人惡意ナル場合ニハ遺留分権利者ハ之レニ對シテモ減殺ヲ請求スルコトヲ得(一一四三)。(6)受贈者及受遺者ハ減殺ヲ受クベキ限度ニ於テ受贈物ノ價額ヲ辨償シテ其返還義務ヲ免カルコトヲ得(一一四四)。(7)受贈者ノ無資力ニ因リテ生ジタル損失ハ遺留分権利者ノ負擔トス(一一四〇)。尙ホ贈與ノ減殺ニヨリ得タル財産ハ相續費用ヲ負擔セザルコト既述ノ如シ。

(四) 時效 減殺請求權ニハ一年又ハ十年ノ消滅時效ノ規定アリ(一一四五)。

### 第八章 遺言

#### 第一節 總說

遺言ノ意義及性質

#### 第一 遺言ノ意義及性質

遺言トハ遺言者ガ其死後ニ於テ效力ヲ生ゼシムル目的ヲ以テ爲シタル相手方ナキ要式ノ單獨行爲ナリ。元來遺言ナルモノハローマ法ニ其源ヲ發シタルモノニシテ、專ラ相續ニ關スルモノナリキ。然ルニ我が民法ニ於テハ遺言者ハ遺言ヲ以テ相續以外ノ種々ナル行爲ヲモ爲シ得ルコトト爲シタルガ故ニ、之レヲ民法總則編ニ規定スルヲ可トスベキモ、民法ハ從來ノ傳統ニ從ヒ又通常ハ相續ニ關連スル遺言多キヲ以テ之レヲ相續編中ニ規定シタルモノトス。

#### 第二 遺言能力

遺言ハ上述ノ如ク法律行爲ニシテ且ツ代理ニ親シマザル行爲ナレドモ、之レヲ爲シ得ル能力ニ關シテハ必シモ總則ノ規定ニ從フコトナシ。第一ニ遺言ハ自然人ノミ之レヲ爲シ得ベク、第二ニ意思能力ヲ有シ且ツ滿十五年ニ達シタル者ニ限り獨立シテ有效ナル遺言ヲ爲スコトヲ得(一〇六一、一〇六二)。又第三ニ遺言ヲ爲ストキニ右ノ能力ヲ有スルコトヲ要ス(一一六三)。

#### 第三 遺言ノ證人又ハ立會人

遺言ノ證人又ハ立會人ハ遺言ノ成立及效力ニ關スルコト重大ナルヲ以テ、民法第一〇七四條ニ於テ證人又ハ立會人タルコトヲ得ザル者ヲ列舉シタリ。尙ホ第一〇八四條ハ之レヲ準用セリ。

#### 第四 共同遺言

遺言ノ證人又ハ立會人

共同遺言



我が民法ハ原則トシテ共同遺言ヲ許スコトナシ。即チ民法ノ規定ニ從ヘバ遺言ハ二人以上同一ノ證書ヲ以テ之レヲ爲スコトヲ得ズトセリ(一〇七五、一〇八五、一一二四以下)。

## 第二節 遺言ノ方式

遺言ハ上述ノ如ク要式行爲ナルヲ以テ、遺言ガ完全ニ有效ナルガ爲メニハ一定ノ方式ヲ守ルコトヲ要ス。而テ遺言ノ方式ニハ普通ノモノト特別ノモノトノ二種アリ。

普通ノ方  
式

### 第一 普通ノ方式(一〇六七)

普通ノ方式トハ通常ノ場合ニ準據スベキ方式ニシテ、之レニ(1)自筆證書(一〇六八)、(2)公正證書(一〇六九、一〇八六)、(3)秘密遺言(一〇七〇、一〇七二、一〇八六)ノ三種アリ。尙ホ禁治産者ノ遺言ニハ普通ノ方式タルト特別ノ方式タルトヲ問ハズ、二人以上ノ醫師ノ立會アルコト及禁治産者ガ遺言ノ時ニ於テ本心ニ回復セシコトヲ證明スルコトヲ要ス(一〇七三、一〇八四)。又秘密遺言ハ其方式ヲ缺クガ爲メ秘密遺言トシテハ無効ナルモ若シ自筆證書ノ方式ヲ具備スルトキハ自筆證書ニ依ル遺言トシテハ有效ナリトス(一〇七一)。

特別ノ方  
式

### 第二 特別ノ方式(一〇七六以下)

特別ノ方式ハ特別ナル事情ノ存スル場合ニ於テノミ之レヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ、之レニ

(1)死亡ノ危急ニ迫リタル者ニ於ケル方式(一〇七六)、(2)傳染病ノ爲メ交通遮斷ノ場所ニ在ル者ニ於ケル方式(一〇七七、一〇八二、一〇八三、一〇八四)、(3)從軍中ノ軍人軍屬ニ於ケル方式(一〇七八、一〇七九、一〇八二、一〇八三、一〇八四)、(4)艦船中ニ在ル者ニ於ケル方式(一〇八〇乃至一〇八四)、(5)領事駐在地ニ在ル日本人ニ於ケル方式(一〇八六)之レナリ。而テ以上ノ特別方式ノ遺言ハ普通方式ヲ行ヒ得ルニ至リタル時ヨリ六ヶ月間遺言者ガ生存シタルトキハ其效力ヲ失フ(一〇八五)。

## 第三節 遺言ノ取消

遺言ノ取消ニ付テハ種々ナル場合ヲ區別シテ考フルヲ可トス。先ヅ(1)遺言ノ成立後其效力發生前ニ於ケル(一〇八七I參照)取消ハ、其性質ハ撤回ニシテ單ニ將來ニ向ツテノミ其效力ヲ生ズ。此場合ニ於テ遺言者ハ遺言ノ方式ニ從フコトヲ要スルモ、必シモ前ノ遺言ノ方式ト同一ナルコトヲ要セズ(一一二四)。又前後ノ遺言ガ牴觸スル場合(一一二五I)遺言後之レト牴觸スル法律行爲ヲナシタル場合(一一二五II)遺言者ガ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタル場合(一一二六)遺贈ノ目的物ノ毀滅(一一二六後段)及遺言書ノ滅失ノ場合モ亦之レニ屬ス。(2)再取消ノ場合即チ以上ノ取消行爲ヲ更ニ取消シタル場合ニ於テハ、原則トシテ之レニヨリテ前ノ遺言ハ復活スルコトナキモ、若シ第一ノ取消行爲ガ詐欺又ハ強迫ニ出タルモノナルトキハ再取消ニヨリテ遺言ハ其效力ヲ復活ス(一一二七)。以上何



レノ場合ニ於テモ取消權ハ之レヲ拋棄スルコトヲ得ズ(一一二八)。

## 第四節 遺言ノ效力

### 第一款 總 說

#### 第一 遺言ノ效力發生時期

遺言ノ效力ハ遺言者死亡ノ時ナルヲ原則トスルモ(一〇八七I)例ヘバ遺言ニヨリテ爲ス私生子認知、養子縁組等ノ行爲ハ其法律行爲ノ要件及手續完了ノ時ニ於テ始メテ遺言者死亡ノ時ニ遡リ或ハ其以前例ヘバ私生子出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ズ(八三二)。

#### 第二 條件附又ハ期限附遺言

遺言ハ其性質ノ許ス限リ條件又ハ期限ヲ附シ得ルモ、(1)遺言ニ停止條件ヲ附シタルトキニ於テ其條件ガ遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ、遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ジ(一〇八七II、一〇八七I)、(2)解除條件附遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ失ヒ(一二七II)其他期限附遺言ニ關シテモ總則編ノ第一三五條ノ規定ノ適用アリ。

#### 第三 遺言ノ無効及取消

遺言ノ無効及取消ニ關シテハ民法總則ノ規定ノ適用アル外、次ノ如キ特別規定アリ。即チ(1)遺言

遺言ノ效力發生時期

條件附又ハ期限附遺言

遺言ノ無効及取消

無能力者ノ爲シタル遺言(一〇六三)、方式ヲ遵守セザル遺言(一〇六七以下)及第一〇六六條ノ場合ニ於テハ其遺言ハ無効ニシテ、(2)負擔附遺贈ヲ受ケタル者ガ其負擔シタル義務ヲ履行セザル場合ニハ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ベシ(一一二九)。

## 第二款 遺 贈

### 第一項 總 說

#### 第一 遺贈ノ意義

遺贈トハ遺言ヲ以テ他人ニ財産ヲ與フルコトヲ云ヒ、之レニヨリテ遺贈ヲ受ク可キ者ヲ受遺者ト云フ。而テ受遺者タルノ資格ハ苟クモ權利能力ヲ有スル者ナル以上、自然人ナルト法人ナルトヲ問ハズ之レヲ有スルヲ原則トスルモ(イ)胎兒ハ受贈者タルノ資格アルコト及(ロ)第九六九條所定ノ者ハ右ノ資格ナキコトノ二個ノ例外アリ(一〇六五)。

#### 第二 遺贈ノ種類

遺贈ニハ左ノ如キ種類アリ。即チ(イ)包括遺贈及特定遺贈(ロ)單純遺贈、條件附、期限附又ハ負擔附遺贈之レナリ。右ノ内ニテ包括遺贈トハ目的物ヲ個々ニ特定スルコトナク權利義務全部ヲ包括的ニ移轉スル場合ニシテ、特定遺贈トハ個々ノ財産ヲ具體的ニ特定シテ移轉スル場合ヲ

遺贈ノ意義

遺贈ノ種類



遺贈ニヨ  
ル財産處  
分ノ制限

云フ。

### 第三 遺贈ニヨル財産處分ノ制限

遺言者ハ遺贈ニヨリテ自由ニ其財産ヲ處分シ得ルヲ原則トス。但シ民法ノ規定ニ從ヘバ遺贈ニヨル財産ノ處分ハ遺留分ニ關スル規定ニ反スルヲ得ズトセリ(一〇六四)。此規定ハ通常、遺贈ニ關スル遺言者ノ處分ノ制限ナリト解スルモ、吾人ハ或ル學者ノ主張スルガ如ク、然ラザルモノト解スルヲ以テ妥當ナリト信ズ(岩田氏著親族相續法綱要一八七頁參照)。

### 第四 遺贈ノ失効

遺贈ハ次ノ事由アルトキハ其效力ヲ生ズルコトナシ。即チ(1)遺言者ノ死亡前ニ受贈者ガ死亡シタルトキ(一〇九六I)、(2)停止條件附遺贈ニ於テ受贈者ガ其條件ノ成就前ニ死亡シタルトキ(一〇九六II)、(3)受遺者ガ遺贈ヲ拋棄シタルトキ(一〇八八、一〇九二)、(4)受遺者ガ遺言者死亡ノ時ニ於テ遺贈ヲ受クル能力ヲ失ヒタルトキ(一〇六五)、(5)特定遺贈ノ目的物ガ全部滅失シタルトキハ遺贈ハ失効ス。此場合ニ於テハ遺言者ガ別段ノ意思ヲ表示セザル限り受遺者ノ受ク可リシモノハ相續人ニ歸屬ス(一〇九七)。

### 第二項 包括遺贈

包括受遺者ハ受遺者ナレドモ遺產相續人ト同一ノ權利義務ヲ負フ(一〇九二)。故ニ包括受遺者ハ

遺產相續人ノ權利義務ニ關スル規定ノ全部ノ適用ヲ受クルモノトス(一〇〇一以下)。從ツテ受遺者ニ關スル規定ハ專ラ特定受遺者ニ付テノミ其適用アルモノトス。

### 第三項 特定遺贈

#### 第一 遺贈ノ拋棄及承認

包括遺贈ノ場合ニ於テハ遺贈ガ效力ヲ生ズルト同時ニ遺言者ノ權利義務ハ當然ニ受遺者ニ移轉ス。然ルニ特定遺贈ニ在リテハ受遺者ハ之レヲ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ベク、ソノ之レヲ爲スノ方式ニ付テハ別段ノ規定ナキモ、其意思表示ハ之レヲ遺贈義務者ニ對シテ爲スベキモノトス。但シ遺贈ノ承認ヲ爲スニ付テハ單ニ其拋棄ヲ爲サザルヲ以テ足り、特ニ承認ヲ爲スベキ旨ノ表示ヲ爲スコトヲ要セズ。又拋棄ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ之レヲ爲シ得ルモ(一〇八八I)、之レニ對シテ民法ハ遺贈義務者其他ノ利害關係人ニ催告權ヲ與ヘタリ(一〇八九)。次ニ受遺者ガ承認又ハ拋棄ヲ爲サズシテ死亡シタルトキハ其相續人ハ自己ノ相續權ノ範圍内ニ於テ其遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ルモ、遺言者ガ別段ノ意思表示シタルトキハ之レニ從フ(一〇九〇)。遺贈ノ承認又ハ拋棄ハ總則編又ハ親族編ノ規定ニ從フノ外之レヲ取消スコトヲ得ズ(一〇九一、一〇二二II)。最後ニ遺贈拋棄ノ效力ハ遺言者死亡ノ時ニ遡及ス(一〇八八II)。

#### 第二 特定受遺者ノ權利義務

本論 第五編 相續法 第八章 遺言 遺言ノ效力

遺贈ノ拋  
棄及承認

特定受遺  
者ノ權利  
義務

遺贈ノ失  
効



特定受遺者ノ權利義務次ノ如シ。即チ(1)遺贈ガ辨濟期ニ至ラザル間又ハ停止條件附遺贈ノ條件ガ成否未定ノ間ニ於テ受遺者ハ遺贈義務者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得ベク(一〇九三)(2)遺言者ガ別段ノ意思ヲ表示セザル限り受遺者ハ遺贈ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ル時ヨリ果實ヲ取得スル(一〇九四)ノ外(3)遺贈義務者ガ遺言者ノ死亡後遺贈ノ目的物ニ付キ費用ヲ出シタルトキハ受遺者ハ其費用ヲ償還スベキモノトス(一〇九五、二九九)。

第三 特定遺贈ノ目的

(一) 相續財産ニ屬セザルモノ 遺贈ノ目的タル物又ハ權利ハ遺言者死亡ノ時ニ於テ相續財産ニ屬セザル可ラズ(一〇九八本文)。然レドモ此原則ニ對シテハ次ノ例外アリ。即チソノ物又ハ權利ガ相續財産ニ屬セザルニモ拘ラズ遺言者ガ之レヲ以テ遺贈ノ目的ト爲ス意思明白ナリシトキ(一〇九八但書)ハ右ノ遺贈ハ有效ニシテ、此場合ニ於テ遺贈義務者ハ其權利ヲ取得シテ之レヲ受遺者ニ移轉スルノ義務ヲ生ズルモ、若シ之レヲ取得スルコト能ハザルカ又ハ之レヲ取得スルニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキハ遺贈義務者ハ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス(一〇九九)。

(二) 相續財産ニ屬スルモノ 相續財産ニ屬スルモノハ原則トシテ遺贈ノ目的トナリ得ルモ、之レニ付キ注意スベキコト次ノ如シ。即チ(1)不特定物ヲ以テ遺贈ノ目的物ト爲シタル場合ニ於テ受遺者ガ追奪ヲ受ケタルトキハ遺贈義務者ハ之レニ對シ賣主ト同様ナル擔保責任ヲ負ヒ、又物ニ

特定遺贈ノ目的  
相續財産ニ屬セザルモノ

相續財産ニ屬スルモノ

瑕疵アリタルトキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之レニ代フルコトヲ要ス(一一〇〇)。(2)遺言者ガ遺贈ノ目的物ノ滅失若クハ變造又ハ占有ノ喪失ニ因リ第三者ニ對シテ償金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其權利ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス(一一〇一I)。(3)遺贈ノ目的物ガ他ノ物ト附合又ハ混和シタル場合ニ於テ遺言者ガ第二四三條乃至第二四五條ノ規定ニヨリ合成物又ハ混和物ノ單獨所有者又ハ共有者ト爲リタルトキハ其全部ノ所有權又ハ共有權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス(一一〇一II)。(4)遺贈ノ目的タル物又ハ權利ガ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ、受遺者ハ遺贈義務者ニ對シ其權利ヲ消滅セシムベキ旨ヲ請求スルコトヲ得ズ(一一〇二)。但シ遺言者ガ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限りニアラズ。(5)債權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ遺言者ガ辨濟ヲ受ケ且ツ其受取リタル物が尙ホ相續財産中ニ存スルトキハ其物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス(一一〇三I)。(6)金錢債權ハ相續財産中ニ其債權額ニ相當スル金錢ナキトキト雖モ其金額ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス(一一〇三II)ルコト之レナリ。

第四項 負擔附遺贈

負擔附遺贈トハ遺言者ガ遺贈ヲ爲スニ當リ受遺者ニ對シテ一定ノ給付ヲ或者ノ爲メニ爲スベキ旨ヲ命ジタル場合ヲ云フ。負擔附遺贈ハ特定遺贈ノ場合ノミナラズ、又包括遺贈ノ場合ニ於テモ存在ス。負擔附遺贈トシテ民法ノ規定スルコトコ次ノ如シ。即チ(1)負擔附遺贈ハ遺贈ノ目的ノ價



額ヲ超エザル限度ニ於テノミ其負擔シタル義務ヲ履行スベキ義務ヲ負フ(一一〇四I)。(2)受遺者が遺贈ヲ拋棄シタルトキハ負擔ノ利益ヲ受ク可キ者が自ら受遺者トナルコトヲ得(一一〇四II)。(3)負擔附遺贈ノ目的ノ價額ガ相續ノ限定承認又ハ遺留分回復ノ訴ニヨリテ減少シタルトキハ受遺者ハ其減少ノ割合ニ應ジテ其負擔シタル義務ヲ免カル(一一〇五)。尙ホ以上(2)及(3)ノ場合ニ於テ遺言者ガ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ之レニ從フ。(4)負擔附遺贈ヲ受ケタル者が其負擔シタル義務ヲ履行セザルトキハ相續人ニ催告權ヲ附與シタルコト(一一二九)之レナリ。

### 第五節 遺言ノ執行

#### 第一款 遺言執行ノ準備手續

(一) 遺言書ノ檢認 遺言書ハ公正證書ニヨル遺言書ヲ除キ(一一〇六II)總テ相續開始地ノ區裁判所ノ檢認ヲ受クルコトヲ要ス(非訟一一)。而テ此檢認ヲ受クルニハ(1)遺言書ノ保管者アル場合ニハ其者が相續開始ヲ知リタル後、(2)之ナキ場合ニハ相續人ニ於テ遺言書ヲ發見シタル後遲滞ナク保管者又ハ相續人ヨリ之レヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス(一一〇六一)。而テ遺言書ニ封印アルトキハ裁判所ニ於テ相續人又ハ其代理人ノ立會ヲ以テ之レヲ開封スベキモノトス(一一〇六III)。尙ホ非訟事件手續法第一一五條一項ヲ參照スベシ。

遺言書ノ檢認

檢認及開封ニ關スル罰則

(二) 檢認及開封ニ關スル罰則 遺言書ノ檢認ヲ裁判所ニ請求スベキ者が之レヲ怠リ、又ハ其檢認ヲ經ズシテ遺言ヲ執行シ、或ハ裁判所外ニ於テ遺言書ヲ開封シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處セラル(一一〇七)。

#### 第二款 遺言執行手續

##### 第一 遺言執行者ノ選任

遺言ノ執行トハ遺言ガ效力ヲ生ジタル後ニ於テ遺言ノ内容タル遺言者ノ意思ヲ實行スルコトヲ云フ。而テ之レガ爲メニハ先ヅ遺言執行者ヲ定ムルコトヲ要ス。遺言執行者ハ遺言ヲ以テ指定セラルル場合ト然ラザル場合トアリ。

遺言執行者ノ選任

遺言執行者ノ指定

(一) 遺言執行者ノ指定 (イ)遺言者が遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定ヲ第三者ニ委任シタル場合ニ於テ(一一〇八一)指定ノ委託ヲ受ケタル第三者ハ遲滞ナク其指定ヲ爲シテ之レヲ相續人ニ通知スベク(同II)、又委託ヲ受ケタル者が其委託ヲ辭セントスルニハ遲滞ナク其旨ヲ相續人ニ通知セザル可ラズ(同III)。(ロ)遺言執行者トシテ指定セラレタル者が之レヲ承認シタルトキハ直チニ就任シ其職務ヲ行フベク(一一〇九) 又若シ之レヲ欲セザルトキハ遲滞ナク辭任スベク、若シ之レヲ怠ルニ於テハ相續人其他ノ利害關係人ニ催告權ガ附與セラル(一一一〇)。



遺言執行者ノ選任

(一) 遺言執行者ノ選任 遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニヨリ之レヲ選任スベク(一一二I) 此場合ノ遺言執行者ハ正當ノ理由ナクシテ其就職ヲ拒ムコトヲ得ザルモノトス(同二項)。

遺言執行者ノ性質

(二) 遺言執行者ノ性質 遺言執行者ノ法定代理人ト看做サルルモ(一一二七) 實際上ノ必要ニヨリ委任代理人ノ規定ヲ之レニ準用ス(一一二四II、一一二〇III、一一二二C)。尚ホ遺言執行者ハ必ズ之レヲ選任スベキコトヲ要セズ。從ツテ若シ利害關係人ガ其選任ヲ請求セザリシトキハ相續人ガ遺言ノ執行者トナル。又無能力者及破産者ハ遺言執行者タルノ資格ヲ有セズ(一一二一)。

遺言執行者ノ任務

第二 遺言執行者ノ任務 遺言執行者ハ先ヅ(1)財産目錄調製ノ義務ヲ負ヒ(一一一三)、(2)相續財産ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權利義務ヲ有シ(一一二四)、從ツテ相續人ハ相續財産ノ處分其他遺言ノ執行ヲ妨グベキ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ(一一二五)。(3)遺言執行者ハ原則トシテ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ズ。而テ若シ之レヲ選任シタルトキハ相續人ニ對シテ第一〇五條ノ責任ヲ負フ(一一二八)。(4)遺言執行者數人アル場合ニ於テ其任務ノ執行ハ過半数ヲ以テ之レヲ決スルモ、遺言者ガ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ之レニ從フ。但シ保存行爲ハ各執行者ニ於テ之レヲ爲スコトヲ得(一一一九)。(5)指定遺言執行者ハ遺言ニ於テ報酬ガ定メラレタル場合ニ於テノミ之レヲ受ケ、(2)選定遺言

遺言執行者ノ任務終了

執行者ハ裁判所ガ報酬ヲ許シタル場合ニ於テノミ之レヲ受ク可ク、又報酬ノ支拂ニ付テハ委任ノ規定ノ準用アリ(一一二〇)。(6)遺言執行ノ費用ハ相續財産ヨリ之レヲ支辨スルモ、遺留分ヲ減ズルコトヲ得ズ(一一二三)。

第三 遺言執行者ノ任務終了

遺言執行者ノ任務終了ノ主ナル場合ハ、(1)遺言ノ執行ガ終了シタルトキ、(2)遺言執行者ノ失格(一一二二C)、(3)遺言執行者ノ死亡、(4)任務ノ懈怠其他ノ事由ニヨリ解任セラレタルキ(一一二二I)及(5)正當ノ事由アリテ辭任シタルトキ(同二項)之レナリ。而テ此場合ニ於テモ急迫處分及通知義務ヲ負フコト他ノ管理人ト異ナルコトナシ(一一二二、六五四、六五五)。

概説 日本民法(了)



昭和四年九月初版  
 昭和八年四月二十五日訂正五版發行  
 昭和十一年四月二十五日改訂九版發行  
 昭和十四年三月十五日改訂九版發行



著者

小池隆一

發行者

東京市神田區神保町二丁目二番地  
 株式會社 巖松堂書店  
 代表者 波多野一

印刷者

東京市本郷區眞砂町三十六番地  
 龜谷良一

發兌元

東京市神田區  
 神保町二丁目

巖松堂書店

電話九段(33)四一三五番 四一三六番  
 四一三七番 四一三八番  
 振替口座東京六五五六番

概日 本民法

定價金參圓八拾錢  
 (外地金四圓拾八錢)



巖松堂書店刊行書

石田文次郎著	神戶寅次郎著	大谷美隆著	勝本正晃著	勝本正晃著	沼義雄著	沼義雄著	沼義雄著	磯谷幸次郎著	小池隆一著	矢口家治著	牧野菊之助著	遊佐慶夫著	遊佐慶夫著	
財產法に於ける動的理論	民法論纂	民法論集	民法研究(第一卷)	民法研究(第二卷)	民法研究(第三卷)	民法研究(第四卷)	綜合日本民法論(65)	綜合日本民法論(43)	綜合日本民法論(21)	民法通論(上下卷)	民法概要	民法要綱(全編)	民法原理(總則物權債權)	民法要
定價四・〇〇 送料二・三〇	定價四・八〇 送料二・三〇	定價二・〇〇 送料一・四〇	定價五・五〇 送料四・八〇	定價四・五〇 送料四・五〇	定價四・八〇 送料四・七〇	定價四・七〇 送料四・五〇	定價四・五〇 送料四・五〇	定價二・〇〇 送料二・〇〇	定價三・八〇 送料二・三〇	定價四・〇〇 送料二・三〇	定價七・〇〇 送料七・〇〇	定價七・〇〇 送料七・〇〇	定價一・一〇 送料一・〇〇	



書行刊店書堂松巖

山下博章著	擔保物權法論	定價二・八〇 送料二二
小林俊三著	訂改擔保物權法	定價二・八〇 送料一四
沼義雄著	綜合日本民法論 別卷第三	定價二・八〇 送料一四
川添清吉著	民法講義(物權)	定價二・七〇 送料二二
吉田久著	民法提要(上物冊)	定價一・四〇 送料一四
立石謙輔著	民法教科書(上物冊)	定價一・〇〇 送料一〇
沼義雄著	民法要論(物權)	定價三・三〇 送料三三
柚木馨著	判例物權法各論	定價三・七〇 送料三三
柚木馨著	判例物權法總論	定價二・五〇 送料二二
柚木馨著	民法概要(物權法)	定價一・五〇 送料一四
勝本正晃著	物權法概說(上卷)	定價二・三〇 送料一四
松本丞治著	註釋民法・法人及物(分冊第一冊)	定價二・五〇 送料一四
川添清吉著	民法講義(總則)	定價二・二〇 送料二二
吉田久著	民法提要(總則)	定價二・三〇 送料二二

書行刊店書堂松巖

梅原重厚著	不法行為概說	定價三・八〇 送料三三
藥師寺志光著	民事判例研究	定價四・五〇 送料三三
田中和夫著	立證責任判例の研究	定價三・〇〇 送料三三
廣岡光治譯	露西亞民法(正文)	定價一・三〇 送料一八
近藤英吉著	民法大綱(總則)	定價七・九〇 送料七〇
近藤英吉著	民法大綱(總則)	定價一・六五 送料一三〇
近藤英吉著	民法(總則編)	定價四・八〇 送料三二
鳩山一郎著	日本民法總論	定價三・〇〇 送料一四
長島毅著	民法總論	定價八・〇〇 送料三〇
長島毅著	民法總綱要論	定價三・五〇 送料二二
沼義雄著	綜合日本民法論 別卷第一	定價二・八〇 送料二八〇
沼義雄著	民法要論(總則)	定價二・八〇 送料二八〇
立石謙輔著	民法教科書(總則)	定價二・〇〇 送料一四
吉田久著	民法教科書(總則編)	定價一・五〇 送料一四



巖松堂書店刊行書

村上恭一著	岡村玄治著	川添清吉著	柚木馨著	横田秀雄著	磯谷幸次郎著	近藤・田島・柚木・三木・川上・伊達著	須賀喜三郎著	勝本正晃著	勝本正晃著	勝本正晃著	勝本正晃著	神戶寅次郎著	田島順・伊達秋雄・柚木馨・近藤英吉著
債權	民法	民法	民法	民法	民法	民法	民法	債權	債權	債權	債權	契約	民法
各論	各論	義(債權)論	要(債權)論	各論	論(各論上)	法(債權)論	總論	論(中卷之一)	論(中卷之二)	論(中卷之三)	總論(下卷)	則(分册)	法(債權)論
定價三・五〇 送料二二	定價六・五〇 送料二二	定價三・三〇 送料二二	定價一・五〇 送料一四	定價三・八〇 送料二二	定價各四・〇〇 送料二二	定價五・〇〇 送料二二	定價四・五〇 送料二二	定價各四・三〇 送料二二	定價五・〇〇 送料二二	定價四・三〇 送料二二	定價三・五〇 送料二二	定價三・八〇 送料二二	定價三・五〇 送料二二

巖松堂書店刊行書

吉田久著	吉田久著	長島毅著	勝本正晃著	柚木馨著	烏賀陽然良著	吾孫子勝著	横田秀雄著	岡村玄治著	沼義雄著	沼義雄著	磯谷幸次郎著	近藤英吉著	近藤英吉著	木藤英吉著
土地所有權	借地借家法	借地借家法	債權	民法	債權總論	債權	債權	債權	民法	民法	民法	民法	民法	民法
論	規解	時處理法講話	概說	要(債權)論	要(上冊)	要	總論	總論	要	總論	總論	總論	總論	總論
定價四・五〇 送料二二	定價一・五〇 送料一〇	定價八〇 送料八〇	定價三・七〇 送料二二	定價一・四〇 送料一四	定價一・八〇 送料一四	定價四・〇〇 送料二二	定價三・八〇 送料二二	定價三・〇〇 送料二二	定價四・五〇 送料二二	定價三・八〇 送料二二	定價七・〇〇 送料二二	定價三・〇〇 送料二二	定價三・〇〇 送料二二	定價三・八〇 送料二二



書行刊店書堂松巖

野田孝明著	柳川勝二著	柳川勝二著	牧野菊之助著	近藤英吉著	森本富士雄著	野田孝明著	遠藤登喜夫著	牧野菊之助著	岩野稔著	石田芳穂譯	團野新之著	兒玉義春著	中村武著
相續法講義案	本相續法要論	本相續法註釋(上卷)	本相續法	夫婦財產法の研究	親族法要論	親族法講義案	親族相續法綱領(親族編)	本親族法論	米國契約法	シユタムラ一の債權法理論	改訂民責任論	不作爲債權概論	債權發生原因論
定價一・五〇 送料一・四〇	定價四・〇〇 送料三・二〇	定價五・五〇 送料四・五〇	定價四・五〇 送料三・二〇	定價三・五〇 送料二・二〇	定價二・〇〇 送料一・四〇	定價一・五〇 送料一・四〇	定價一・五〇 送料一・四〇	定價四・五〇 送料三・二〇	定價二・五〇 送料一・四〇	定價三・五〇 送料二・二〇	定價七・〇〇 送料三・二〇	定價三・〇〇 送料二・二〇	定價七・〇〇 送料三・二〇

書行刊店書堂松巖

細野長良著	細野長良著	前田直之助著	前田直之助著	板倉松太郎著	三ヶ尻好太郎著	岩本勇次郎著	神谷健夫著	神谷健夫著	勅使河原直三郎著	森田豐次郎著	慶松堂編輯部編	江家義雄譯	吉武繁著	霜山精一著
民事訴訟法要義(第四卷)	民事訴訟法要義(第三卷)	民事訴訟法講義(第二編)	民事訴訟法講義(第一編)	訂民事訴訟法綱要	民事訴訟法要綱	民事訴訟法原論(上訴以下強制執行上冊)	民事訴訟法原論(第一編)	民事訴訟法原論(第二編)	改訂民事訴訟法概論	民事訴訟法概要	改正民事訴訟法(正文)	ソツイ婚姻親族後見法	朝鮮親族相續法要論	改訂親族相續先例類纂
定價四・八〇 送料四・五〇	定價五・〇〇 送料四・五〇	定價二・〇〇 送料一・四〇	定價一・七〇 送料一・四〇	定價二・〇〇 送料一・四〇	定價六・五〇 送料三・二〇	定價一・五〇 送料一・四〇	定價一・〇〇 送料一・〇〇	定價一・〇〇 送料一・〇〇	定價四・〇〇 送料三・二〇	定價三・三〇 送料二・二〇	定價五・〇〇 送料三・六〇	定價八・〇〇 送料六・〇〇	定價四・三〇 送料三・二〇	定價四・八〇 送料三・二〇



巖松堂書店刊行書

板倉松太郎著	谷井辰藏著	柳川勝二著	松岡義正著	仁井田益太郎編	研民事訴訟法會編	金澤澤著	新居彌市著	胡麻本萬一譯	江口新譯	松岡義正著	中村宗雄著	岩本好次郎著	三ヶ尻好次郎著	細野長良著
強制執行法	強制執行法論	人事訴訟手續法論	特別民事訴訟論	新法標準民事訴訟法判例集	民事訴訟法	民事訴訟書式集	實例民事訴訟と貼用印紙	露西亞民事訴訟法(正文)	コンラードヘルツハイヒ訴訟行為論	民事證據論	改正民事訴訟法評釋	民事訴訟法要論(上卷)	民事訴訟法要論(下卷)	民事訴訟法要義(第五卷)
送料 一〇〇〇	送料 五〇〇	送料 二〇〇	送料 四〇〇	送料 六〇〇	送料 一五〇	送料 二〇〇	送料 一〇〇	送料 八〇	送料 二〇〇	送料 六〇〇	送料 二五〇	送料 八〇〇	送料 六〇〇	送料 四〇〇



591  
157



